

FMV

DESK POWER

B5FH-7341-01

L20C/F,L20C/R,L20C/S,
L20C,L20CN,L20C/CN

1

番目に読む本

パソコンの準備

パソコンの電源を入れる前にお読みください。
接続方法や、必要な準備について説明します。

- 1 各部名称
- 2 始める前に
- 3 接続する
- 4 パソコンの準備をする
- 5 接続 / 設定する
- 6 仕様

FUJITSU

表紙をめくるとマニュアルの
読み方があります。



『パソコンの準備』の内容

必ずお読みください

まず機種名や添付品の確認をします
第2章 パソコンを使い始める前に (●▶P.15)



必要な機器を接続します
第3章 接続する (●▶P.21)



電源を入れてパソコンを使う準備をします
第4章 電源を入れてパソコンの準備をする
1 初めて電源を入れる (●▶P.26)



通信の回線を接続します
第4章 電源を入れてパソコンの準備をする
3 通信の回線を接続する (●▶P.60)

5章は目的に合わせてお読みください

- プリンタやメモリなどの周辺機器を取り付けたい (●▶P.72)
- ホームサーバー機能を使いたい (●▶P.75)
- ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの通信周波数／ID設定値を変更したい (●▶P.77)
- テレビを見たい (●▶P.88)

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたいえで本パソコンをお使いください。

また、このマニュアルおよび『安全上のご注意』は、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複製して、保管しておいてください。
- 本パソコンの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本パソコンにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。

なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアが別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

- 本ソフトウェアの使用および著作権**
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本パソコンでのみ使用できます。なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
- バックアップ**
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
- 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み**
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
- 複製**
 - 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
 - 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないで行ってください。
- 第三者への譲渡**
お客様が本ソフトウェア（本パソコンに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本パソコンに添付されている媒体を本パソコンとは別に第三者へ譲渡することはできません。
- 改造等**
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
- 壁紙の使用条件**
お客様は、「FMV」ロゴ入りの壁紙を改変したり、第三者へ配布することはできません。
- 保証の範囲**
 - 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
 - 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
 - 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
- ハイセイフティ**
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（<http://www.microsoft.com/japan/>）。

お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。

したがって、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。




ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。




このマニュアルの表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使用しています。これは装置を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う危険があることを示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の表示と同時に次のような記号を使っています。







	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、画面およびイラストが若干異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	サービスアシスタントを表しています。次のいずれかの操作で起動できます。 ・キーボードの「Support」ボタンを押す ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「富士通サービスアシスタント」→「富士通サービスアシスタント」の順にクリック
	CD-ROM / DVD-ROM を表しています。

製品などの呼び方について

このマニュアルでは製品名称などを、次のように略して表記しています。

正式名称	このマニュアルでの表記	
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition	Windows
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	
Microsoft® Office XP Personal	Office XP Personal	
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法	
DVD Multi ドライブ、DVD-R/RW ドライブ、CD-RW/DVD-ROM ドライブ	CD/DVD ドライブ	
ハードウェア MPEG2 リアルタイムエンコーダ付きテレビチューナー	ハードエンコーダ付き TV チューナー	
富士通サービスアシスタント V1.4	サービスアシスタント	
Norton Internet Security™ 2003	Norton Internet Security	

警告ラベル／注意ラベル

このパソコンには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

商標および著作権について

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の登録商標です。

Motive のロゴ、Motive Communications, Inc., ServiceNet Platform および他の製品名あるいは技術用語は Motive Communications, Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

データのバックアップについて

本装置に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任は一切負いかねますのでご了承ください。

添付の CD-ROM などは大切に保管してください

これらのディスクは、本パソコンに入っているソフトウェアをご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

以下は、液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・ TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 294 万個以上（解像度 1280 × 768 の場合）の画素（ドット）より作られています。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
この装置は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

本製品には、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

本装置の使用環境は、温度 10 ～ 35℃、湿度 20 ～ 80% です。また、保存環境は、温度 -10 ～ 60℃、湿度 20 ～ 90% です。

このパソコンは、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本装置は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。

本装置の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. 本装置を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本装置から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、本装置から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」

本装置と IEEE802.11a 準拠の機器とは、使用している周波数帯域が異なるため、通信できません。ご注意ください。
パソコン本体と通信相手の機器との推奨通信距離は、屋内 25m です。周囲の環境（壁や家具などの影響）、建物の構造によっては、通信可能距離が短くなる場合があります。特に鉄筋コンクリートの建物では、上下の階や左右の部屋など鉄筋の入った壁をはさんで設置した場合、通信できないことがあります。

このパソコンには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。したがって、このパソコンを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

本パソコンにテレビを接続する場合は、適度な明るさの部屋で、できるだけテレビ画面から離れてご覧ください。
ごくまれに強い光の刺激を受けたり、点滅を繰り返す画面を見ていると、一時的に筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こす方がおられます。こうした症状を経験したことがある方は、テレビ画面をご覧になる前に、必ず医師にご相談ください。また、テレビ画面を見ている途中でこのような症状が起きた場合は、すぐに中止して医師の診断を受けてください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。
(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

本装置は、高調波ガイドライン適合品です。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



この製品には、マクロビジョンコーポレーション及びその他の権利者が所有している米国特許の方法クレームその他の知的財産権で保護されている著作権保護のための技術が搭載されています。この著作権保護のための技術の使用に関しては、マクロビジョンコーポレーションの許可が必要ですが、家庭及びその他の限定された視聴に限っては許可を受けています。またリバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

この製品の構成部品（プリント基板、CD/DVD ドライブ、ハードディスク、液晶ディスプレイなど）には、微量の重金属（鉛、クロム、水銀）や化学物質（アンチモン、シアン）が含有されています。



目次

このマニュアルの表記について	3
目次	7
第1章 各部名称	
1 パソコン本体前面	10
2 パソコン本体側面	11
パソコン本体左側面	11
パソコン本体右側面	12
3 パソコン本体背面	13
4 ワンタッチボタン	14
第2章 パソコンを使い始める前に	
1 確認してください	16
機種名を確認してください	16
添付品がすべて揃っているか確認してください	16
2 使用上のお願い	17
設置に適した場所	17
設置に適さない場所	18
3 必要なものを揃える	19
パソコン本体の箱に入っています	19
第3章 接続する	
1 キーボード／マウスを準備する	22
2 電源ケーブルを接続する	24
第4章 電源を入れてパソコンの準備をする	
1 初めて電源を入れる	26
接続を確認する	26
初めて電源を入れる～Windows のセットアップ	27
2 電源の切り方と入れ方	48
電源を切る	48
電源を入れる	58
3 通信の回線を接続する	60
こんな方法があります	60
一般の電話回線を使う場合	61
ISDN 回線を使う場合	65
携帯電話／PHS を使う場合	66
ADSL 回線を使う場合	67
4 ユーザー登録をする	68
パソコンの画面上でユーザー登録をする	68
5 準備が完了したら	69
パソコンの準備はすべて完了していますか？	69
パソコンの準備が完了したら『使いはじめガイド』へ	69
Smart Display セットモデルをお使いの方は	69

第5章 目的に合わせて接続／設定する

1 周辺機器（メモリなど）を取り付ける	72
取り扱い上の注意	72
「画面で見るマニュアル」をご覧ください	72
2 ホームサーバー機能を使う（ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方）	75
ホームサーバー機能について	75
Windows のセットアップが終わったら『ホームサーバー機能 取扱説明書』へ	76
3 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて	77
使用に適した配置	77
乾電池について	78
通信周波数／ID 設定値について	80
4 テレビを見る準備をする	88
必要なものを用意する	88
乾電池を入れる	89
接続する	90
リモコンをお使いになる場合の注意	91
テレビを見る	92
テレビを見るときに注意	92

第6章 付 録

1 仕様一覧	94
パソコン本体	94
液晶ディスプレイ	99
内蔵スピーカー	99
LAN 機能	99
ハードエンコーダ付き TV チューナーカード	100
TV チューナーカード	100
リモコン	100
2 その他の注意事項	101
乾電池の注意事項	101
3 リサイクルについて	102

索引	105
----	-----

1

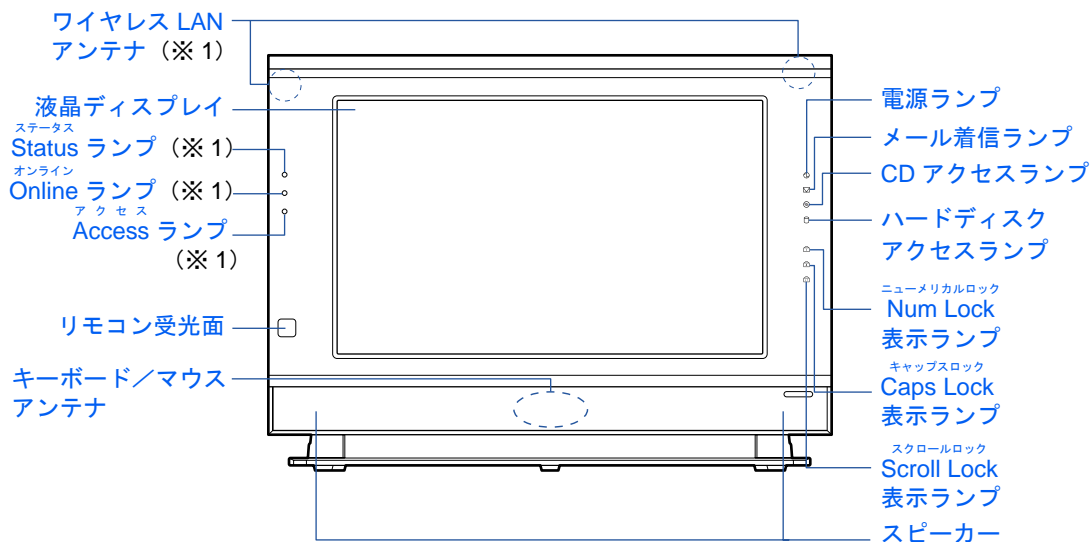
第 1 章 各部名称

パソコンの各部の名称について説明しています。

1	パソコン本体前面	10
2	パソコン本体側面	11
3	パソコン本体背面	13
4	ワンタッチボタン	14

1 パソコン本体前面

機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」(●▶P.16)をご覧ください。



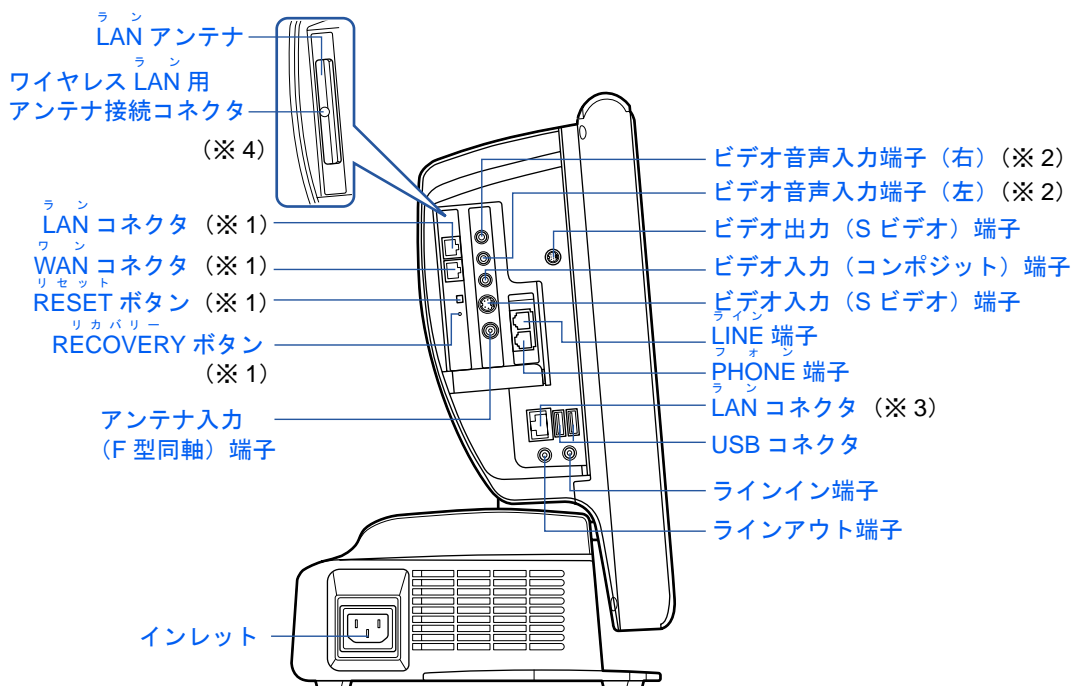
※1 ホームサーバー機能内蔵の機種の場合

詳しくは、☎(サービスアシスタント)の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「パソコン本体の基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体前面」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ(●▶P.27～P.46)が終了してからご利用ください。

2 パソコン本体側面

パソコン本体左側面

機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」(●▶P.16)をご覧ください。

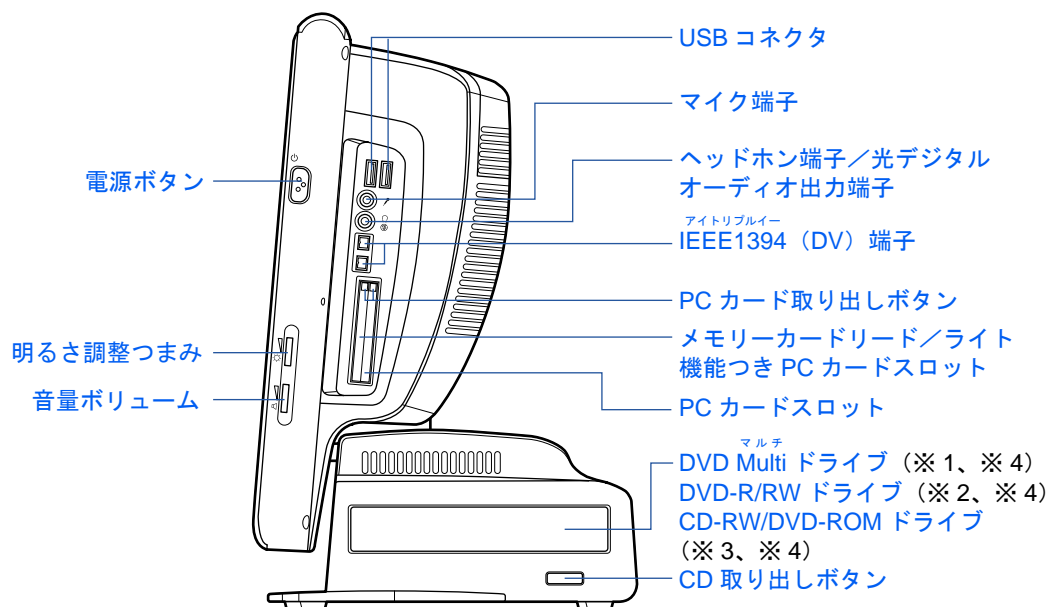


- ※1 ホームサーバー機能内蔵の機種の場合
- ※2 ハードエンコーダ付き TV チューナーカード内蔵の機種の場合
- ※3 ホームサーバー機能を内蔵していない機種の場合
- ※4 ワイヤレス LAN カード内蔵の機種の場合

詳しくは、☎(サービスアシスタント)の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「パソコン本体の基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ(●▶P.27 ~ P.46)が終了してからご利用ください。

パソコン本体右側面

機種名の調べ方は、「機種名を確認してください」(●▶P.16)をご覧ください。



※1 L20C/F をお使いの場合

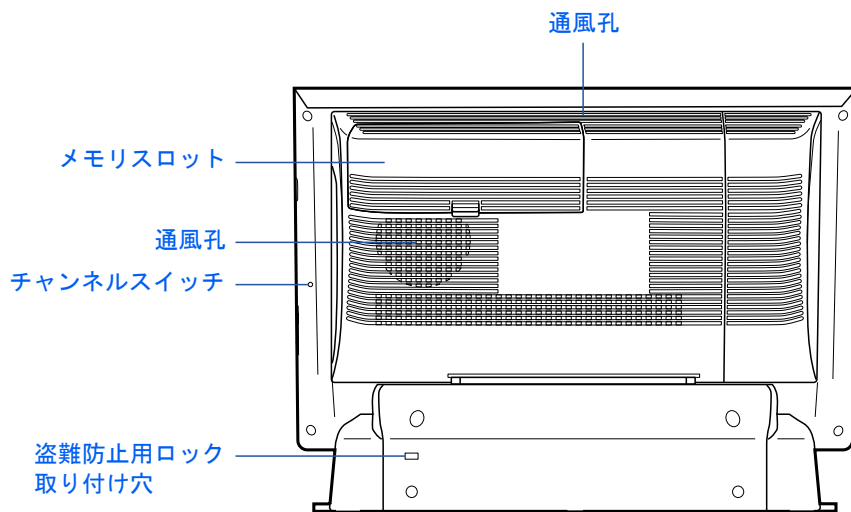
※2 L20C/R をお使いの場合

※3 L20C/S、L20C をお使いの場合

※4 L20CN、L20C/CN には、ご購入時に選択したドライブが取り付けられています。

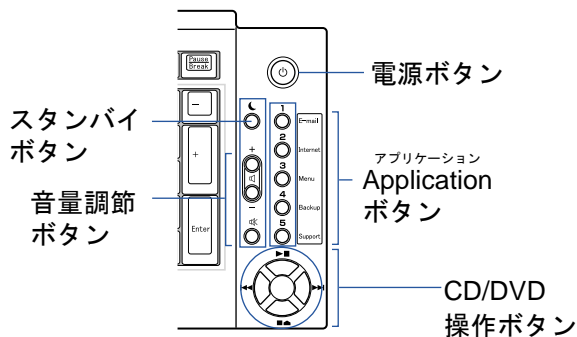
詳しくは、☎(サービスアシスタント)の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「パソコン本体の基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体側面」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ (●▶P.27 ~ P.46) が終了してからご利用ください。

3 パソコン本体背面

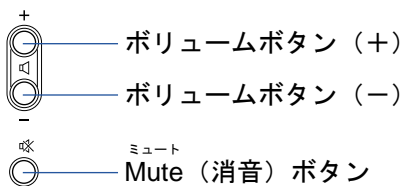


詳しくは、☎(サービスアシスタント)の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「パソコン本体の基本機能」→「各部の名称と働き：パソコン本体背面」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ (▶P.27 ~ P.46) が終了してからご利用ください。

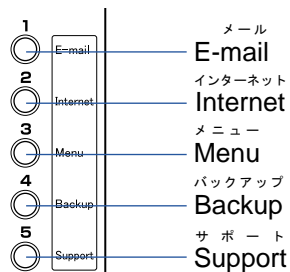
4 ワンタッチボタン



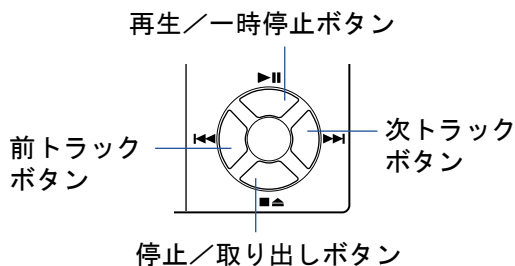
■ 音量調節ボタン



■ アプリケーション Application ボタン



■ CD/DVD 操作ボタン



詳しくは、☎(サービスアシスタント)の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「パソコン本体の基本機能」→「各部の名称と働き：ワンタッチボタン」をご覧ください。なお、サービスアシスタントは、Windows のセットアップ (●▶P.27 ~ P.46) が終了してからご利用ください。

2

第 2 章

パソコンを使い始める前に

最初に確認していただきたいことと、パソコンの設置場所について説明しています。

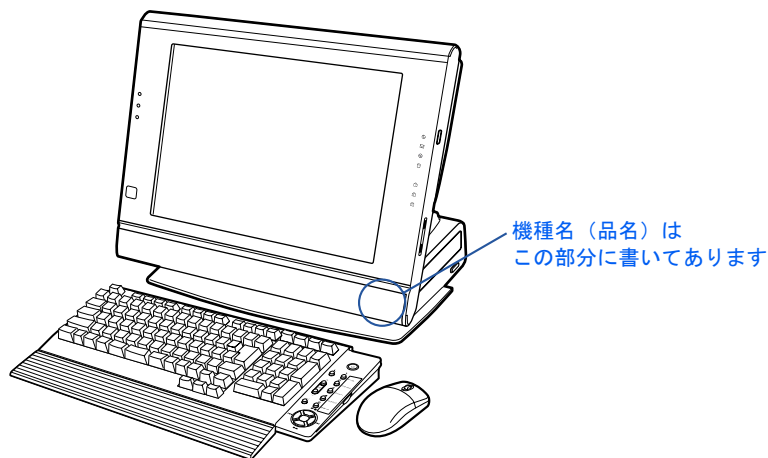
1 確認してください	16
2 使用上のお願い	17
3 必要なものを揃える	19

1 確認してください

最初に確認していただきたいことを説明します。

機種名を確認してください

お使いの機種によって、マニュアルを読む箇所が異なります。お使いのパソコンの機種名（品名）を確認しましょう。



添付品がすべて揃っているか確認してください

『箱の中身を確認してください』をご覧になり、添付品をもう一度ご確認ください。

もし足りない部品などがあった場合は、できるだけ早く、ご購入元または富士通パソコン診断センターにご連絡ください。富士通パソコン診断センターについては、『富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口』チラシをご覧ください。



(機種により若干異なります)

2 使用上のお願い

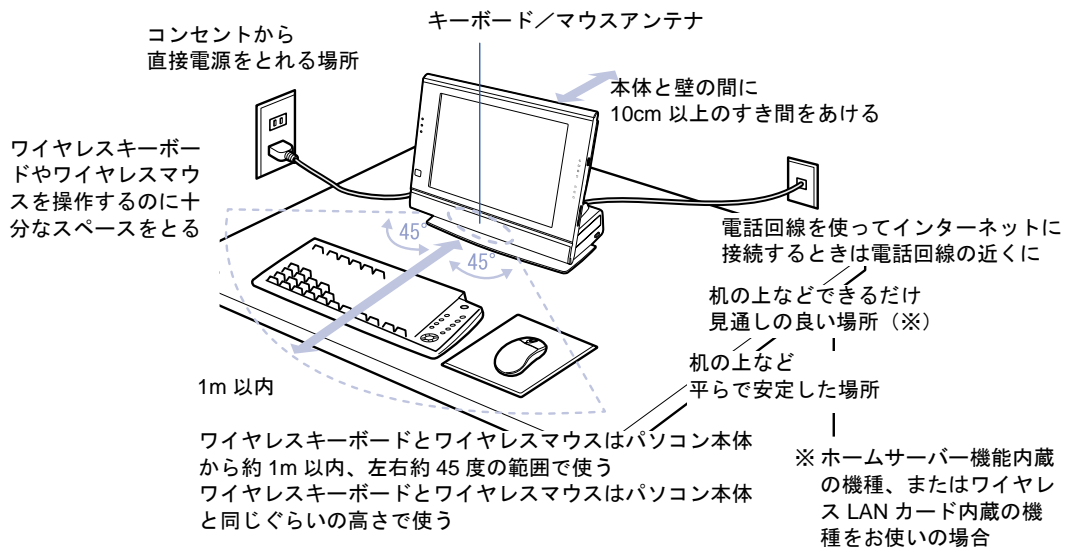
パソコンを設置するのに適した場所、適さない場所を説明します。

2

設置に適した場所

パソコンは、次のような場所でお使いください。

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。信号を受けるキーボード/マウスアンテナはパソコン本体に内蔵されています。

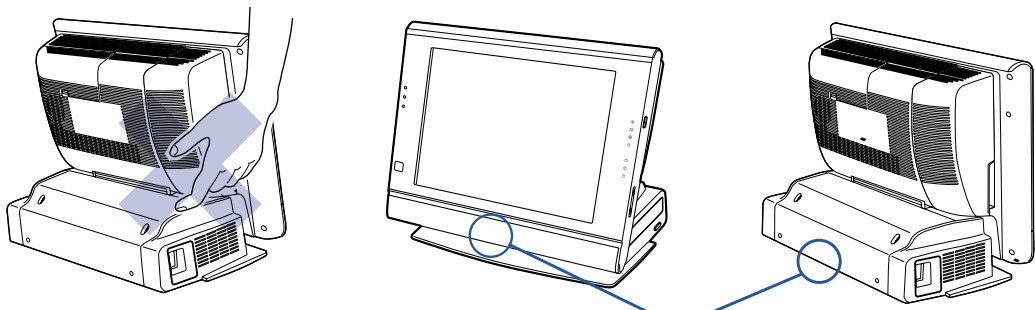


POINT

本体を持ち上げたり移動させたりする場合の注意

パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、本体左側面のカバーの部分を持たないでください。カバーが外れて落下するおそれがあります。

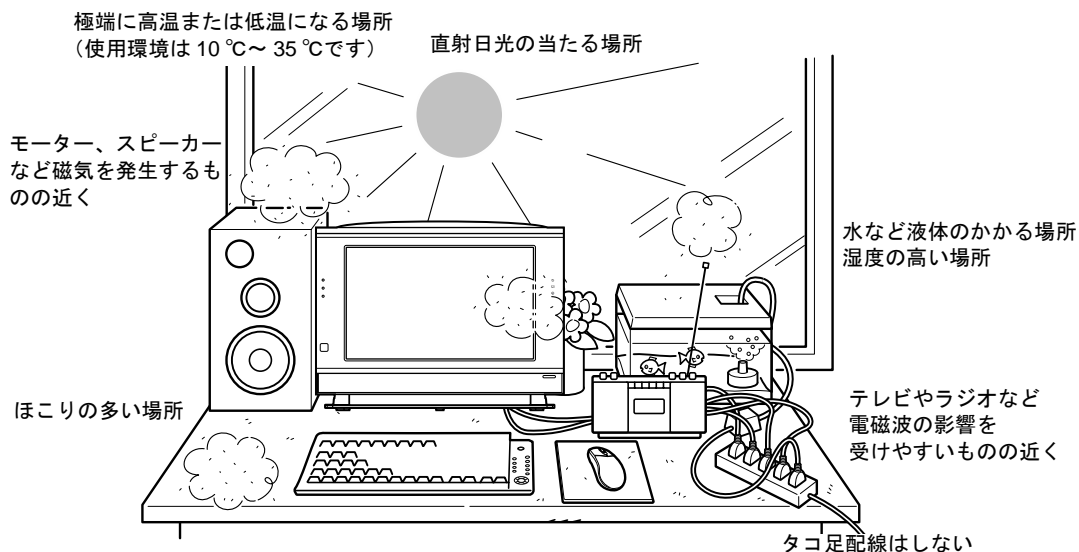
持ち上げる場合は、液晶ディスプレイの下側の中央部分と本体台座部分の下側の中央部分の2ヶ所を、両側から両手でつかんで持ち上げるようにしてください。



この部分をつかんでください

設置に適さない場所

誤動作や故障の原因となるため、次のような場所ではお使いにならないでください。



電波の影響を受ける環境でお使いになる場合

次のような環境でお使いになると、周囲からの電波の影響を受けて、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスがうまく動作しないことがあります。

- ・ パソコン本体をスチール机やスチール棚のような金属製の台の上に乗せている
- ・ パソコン本体と、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスの間に電気・電子機器や金属製のものを置いている
- ・ 周囲でノイズ源となる電気・電子機器（無線機器を含む）を使用している
- ・ 周囲にこのパソコンと同じ周波数の電波を使用している機器がある（このパソコンを複数台でお使いの場合、無線局の近隣でお使いの場合、周囲でラジコンや無線機をお使いの場合など）

このような場合には、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの通信周波数／ID 設定値を変更すると、動作する場合もあります。詳しくは、「通信周波数／ID 設定値について」（▶P.80）をご覧ください。

■ ホームサーバー機能内蔵の機種、またはワイヤレス LAN カード内蔵の機種をお使いの方

次のような場所でお使いになると、周囲の電波の影響を受けて、ワイヤレス LAN 接続が正常に行えないことがあります。

- ・ Bluetooth™ 対応機器の 10m 以内
- ・ 電子レンジの近く
- ・ アマチュア無線機の近く
- ・ 足元など見通しの悪い場所

3 必要なものを揃える

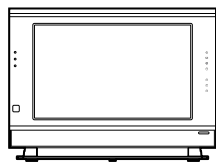
必要なものをあらかじめ揃えてから、第3章へ進みましょう。

2

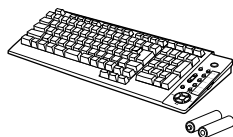
パソコン本体の箱に入っています

※イラストは実際と若干異なる場合があります。

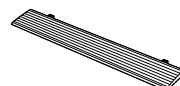
■ パソコン本体



■ ワイヤレスキーボード 単3 アルカリ乾電池×2



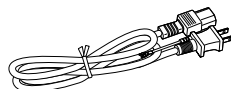
■ パームレスト



■ ワイヤレスマウス 単4 アルカリ乾電池×2



■ 電源ケーブル



■ 保証書



梱包箱に貼り付けられています。

続いて、パソコンの接続をしましょう (→▶P.21)。

Memo

3

第 3 章 接続する

パソコンの接続について説明しています。

1 キーボード／マウスを準備する	22
2 電源ケーブルを接続する	24



注意



故障

・ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。

1 キーボード／マウスを準備する

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスに添付のアルカリ乾電池を入れます。



・乾電池を入れる場合、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



ご購入時に添付されている乾電池はお早めに交換してください

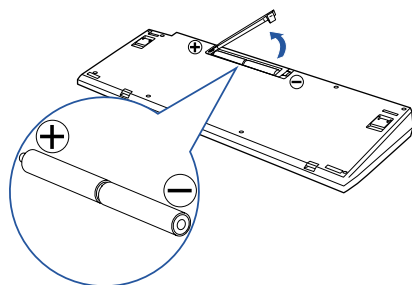
ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。詳しくは、「乾電池について」(▶P.78)をご覧ください。

このパソコンを複数台お使いの場合

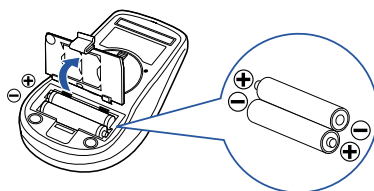
このパソコン複数台を、近くで同時に操作すると、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが混信し、初めて電源を入れてから行う操作（Windows のセットアップ）が正常に行われない場合があります。Windows のセットアップは 1 台ずつ行い、セットアップ終了後に「通信周波数 / ID 設定値について」(▶P.80) をご覧になり、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数 / ID 設定値を変更してください。

1 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを裏返して電池ボックスを開け、添付のアルカリ乾電池を入れます。

■ ワイヤレスキーボード

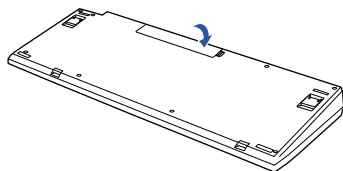


■ ワイヤレスマウス



2 電池ボックスを閉めます。

■ ワイヤレスキーボード

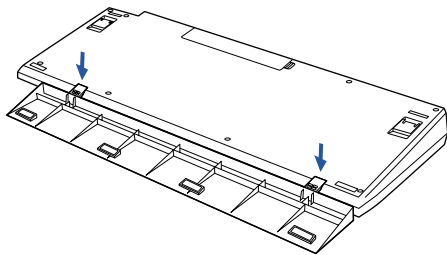


■ ワイヤレスマウス



POINT**ワイヤレスキーボードには、添付のパームレストを取り付けることができます**

ワイヤレスキーボードを裏返して、ワイヤレスキーボードにパームレストを取り付けます。



パームレストを取り付けた状態で、パームレストに無理な力をかけないでください。取り付け部分が破損する場合があります。

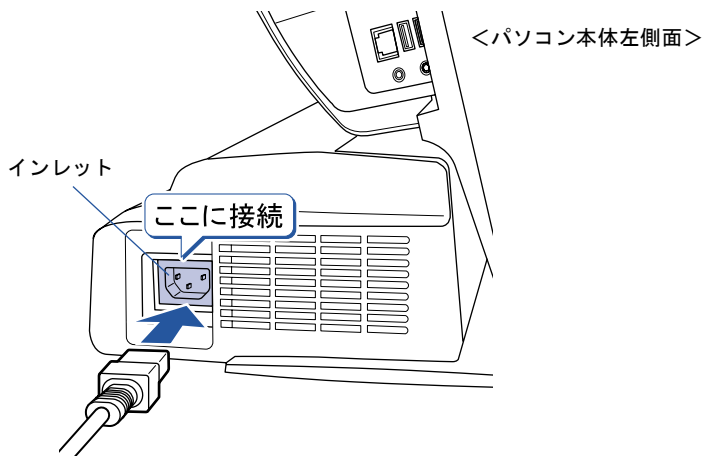
続いて、電源ケーブルを接続しましょう (●▶P.24)。

2 電源ケーブルを接続する

パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

1 電源ケーブルを、パソコン本体に接続します。

コネクタの向きに注意して差し込んでください。



重要

ここではまだ電源プラグをコンセントに差し込まないでください

電源プラグを差し込む前に、「接続を確認する」(●▶P.26)をご覧ください。

ホームサーバー機能内蔵の機種の場合

パソコン本体左側面のインレットの部分に注意事項のシールが貼ってあります。内容をよくお読みになった上でこのシールをはがし、電源ケーブルを接続してください。

続いて、電源を入れましょう (●▶P.26)。

4

第4章

電源を入れてパソコンの準備をする

初めてパソコンの電源を入れるとき最初に行う準備について説明しています。このマニュアルの手順どおりに進めてください。

1	初めて電源を入れる	26
2	電源の切り方と入れ方	48
3	通信の回線を接続する	60
4	ユーザー登録をする	68
5	準備が完了したら	69

1 初めて電源を入れる

接続を確認する


電源を入れる前に、下のイラストをご覧になり、正しく接続できているか確認してください。

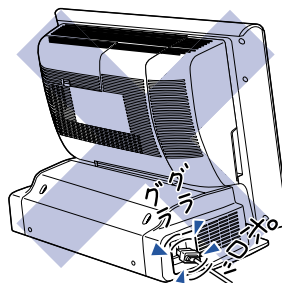
重要

ケーブルはグラグラしていませんか？

奥までしっかりと差し込まれているか、もう一度お確かめください。

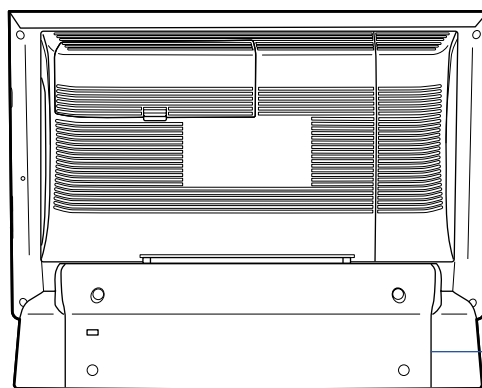
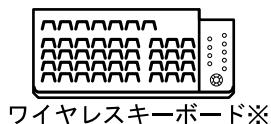
セットアップ前には周辺機器は接続しないでください

プリンタやメモリ、ターミナルアダプタ (TA)、LAN ケーブルなどの周辺機器が接続されていると、初めて電源を入れてから行う操作 (Windows のセットアップ) の途中でパソコンが動かなくなってしまうことがあります。Windows のセットアップが終わった後で、周辺機器のマニュアルをご覧になり、接続してください。LAN ケーブルの接続方法については、 (サービスアシスタント) の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「周辺機器を取り付ける」→「LAN を使う」をご覧ください。



ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの操作範囲はディスプレイから約 1m 以内です。使用環境によっては、操作範囲が短くなったり、他のワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスと混信し正常に動作しなくなるおそれがあります。その場合は、Windows のセットアップ終了後、「通信周波数 / ID 設定値について」(▶P.80) をご覧になり、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数 / ID 設定値を変更すると改善されることがあります。



電源ケーブル

※ 添付の乾電池が正しく入っているか確認してください。

初めて電源を入れる～Windows のセットアップ

初めて電源を入れるときは、**Windows のセットアップ**という作業が必要です。Windows のセットアップとは、初めてパソコンの電源を入れるときに、1 回だけ行う操作です。このマニュアルの手順どおりに進めてください。この Windows のセットアップが終わらないと、パソコンは使えるようになりません。

セットアップ時の注意事項

ホームサーバー機能内蔵の機種 of 注意事項

ホームサーバー機能内蔵の機種の場合、電源プラグをコンセントに接続すると、自動的にパソコン本体の電源が入り、セットアップが始まります。

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスをあらかじめ準備した上で電源プラグをコンセントに接続してください。準備していない場合は、「接続する」(▶▶P.21)をご覧ください。

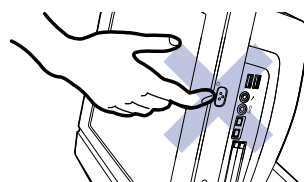
ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスの注意事項

このパソコン複数台を、近くで同時に操作すると、ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスが混信し、初めて電源を入れてから行う操作（Windows のセットアップ）が正常に行われなない場合があります。

Windows のセットアップは 1 台ずつ行い、セットアップ終了後に「通信周波数／ID 設定値について」(▶▶P.80) をご覧になり、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数／ID 設定値を変更してください。

セットアップが終わるまで電源を切らないでください

セットアップを途中で止めると、Windows が使えなくなる場合があります。セットアップの最後の手順が終わるまでは、電源を切らないでください。もし電源を切って Windows が使えなくなった場合、『トラブル解決ガイド』→「電源が入らない、画面が表示できないトラブル」→「Q パソコンの電源を入れると、再起動を繰り返す」をご覧ください。



セットアップ中の画面表示について





セットアップ中は、画面の両端が黒く表示されますが、故障ではありません。セットアップ終了後は全画面表示になります。

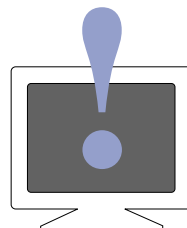
画面が乱れることがあります

電源を入れてから「Microsoft Windows へようこそ」という画面が表示されるまでの間、一瞬画面が乱れることがあります。故障ではありませんのでそのままお使いください。

しばらく操作しないと

電源を入れた状態でしばらく（約 10 分間）操作しないと、動画（スクリーンセーバー）が表示されたり、画面が真っ暗になったりすることがありますが、電源が切れたわけではありません。これはパソコンの省電力機能が働いている状態です。

マウスを動かしたり、キーボードの     や **[Shift]** のどれかを押ししたりすると、元の画面に戻ります。



Windows のセットアップを始めましょう。

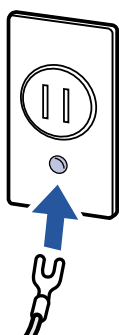
「Windows のセットアップ」とは、次の4つの作業のことです。合計39手順あります。

- 1 「Windows の設定」 →手順 1 ～ 14
- 2 「必ず実行してください」の実行→手順 15 ～ 23
- 3 「サービスアシスタントの起動・終了方法」 →手順 24 ～ 30
- 4 「所在地情報の設定」 →手順 31 ～ 39

ページの右端にセットアップの進行状況を示していますので参考にしてください。

Windows の設定

- 1 アース線をコンセントのアースネジに差し込みます。



重要

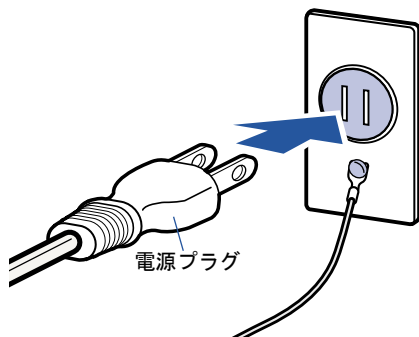
アース線について

安全のため、電源ケーブルにはアース線がついています。コンセントに電源プラグを差し込む前に、必ずアース線をコンセントのアースネジへ接続してください。

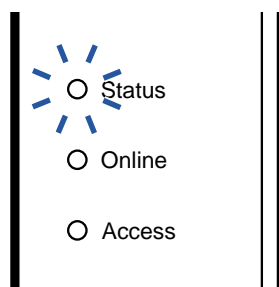
電源ケーブルを抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。

- 2 電源ケーブルを、コンセントに差し込みます。

電源プラグを、コンセントに差し込みます。



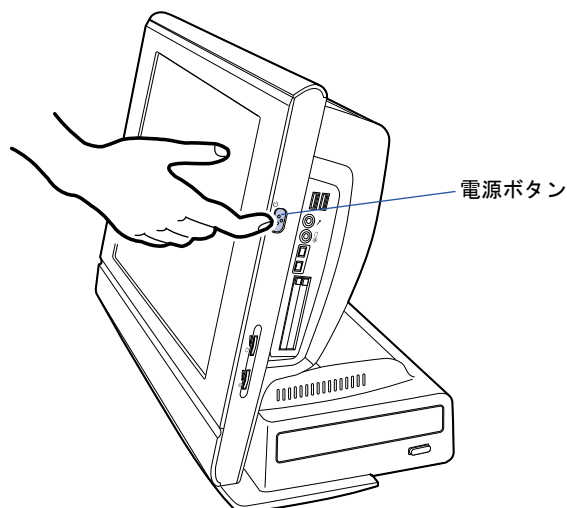
ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの場合は、自動的にパソコン本体の電源が入りません。Status ランプがオレンジ色に点灯します。



この間、画面が真っ暗で変化がなくても、故障ではありません（起動には約 1 ～ 2 分かかります）。

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は、手順 4 へ進んでください。

3 ホームサーバー機能を内蔵していない機種をお使いの方のみ、パソコン本体の電源ボタンを押します。



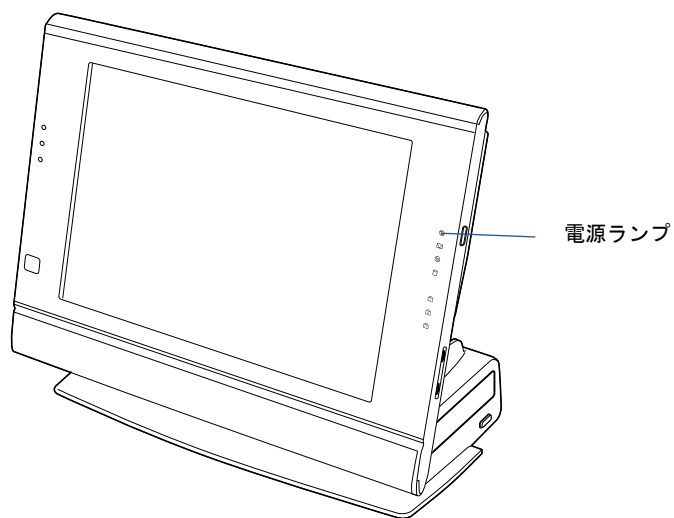
重要

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は

ここでは絶対に電源ボタンを押さないでください。Windows が使えなくなる場合があります。

4 電源ランプが緑色に点灯することを確認します。

電源が入ると、画面にさまざまな文字などが表示されます。



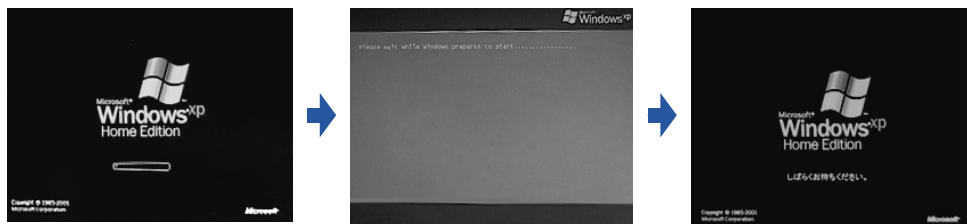
POINT

画面に何も表示されない場合は（ホームサーバー機能を内蔵していない機種をお使いの方）

もう一度電源ボタンを押してみてください。

5 そのまましばらくお待ちください

電源を入れると、次のような画面が表示されます。



※画面は Windows XP Home Edition のものです。
Windows XP Professional の場合は、一部表示が異なります。

この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。

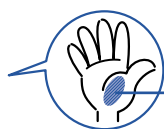
手順 7 の画面 (▶▶P.32) が表示されるまで、電源を切らずにそのままお待ちください。
途中で電源を切ると、Windows が使えなくなる場合があります。

もし電源を切って Windows が使えなくなった場合は、『トラブル解決ガイド』→「電源が入らない、画面が表示できないトラブル」→「Q パソコンの電源を入れると、再起動を繰り返す」をご覧ください。

6 マウスを用意します。

マウスを机の上などの平らな場所に置き、左右のボタンに指がかかるように手を軽く乗せます。

手のひらの下の部分が、軽く机に触れるようにしてください。

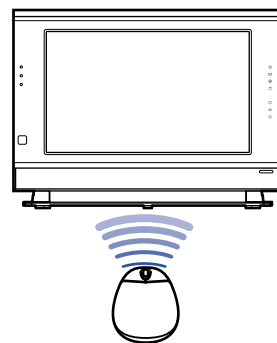


ここが机に触れるようにします

POINT

マウスの向きに注意！

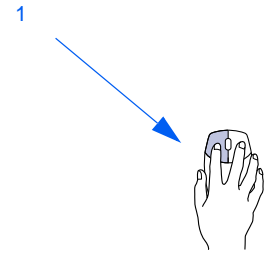
ワイヤレスマウスはボタンがあるほうをパソコン本体に向けて使います。



7 1 画面上の^{マウス}を「次へ」の右の^{矢印}に合わせ、2 マウスの左ボタンを軽くカチッと1回押して、すぐ離します。

マウスを平らな場所に置いたまま、すべらせると、マウスの動きに合わせて、^{マウスポインタ}が画面の上を動きます。

2の操作のことを、「クリック」といいます。



マウスポインタを合わせると薄い緑色に変わります。

POINT

これ以降は機種により画面が異なる場合があります。

このマニュアルと違う画面が表示された場合は、画面の指示に従い、手順 13 まで進めてください。

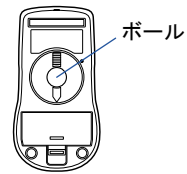
キーボードやマウスで操作できない場合

キーボードやマウスが操作できなくなった場合は、「使用上のお願い」(●▶P.17)をご覧ください。それでも操作できない場合は、次の手順に従ってパソコンの電源を入れ直してください。

1. 電源ボタン (●▶P.12) を 4 秒以上押したままにして、強制的に電源を切ります。
2. ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスに乾電池が正しく入っているか確認します (●▶P.22)。
3. もう一度電源ボタンを押します (4 秒以上押さないでください)。

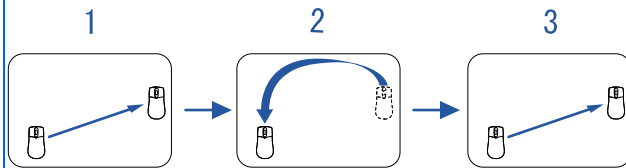
マウスのしくみ

マウスには裏面にボールが付いています。マウスを机の上ですべらせると、ボールが回転して、画面上のマウスポインタが動くようになっています。



マウスが機の端まできたら



1 マウスが機の端まできたら、2 いったんマウスを持ち上げて、もう一度別の位置から動かしてください。マウスを持ち上げている間は、マウスポインタは動きません。

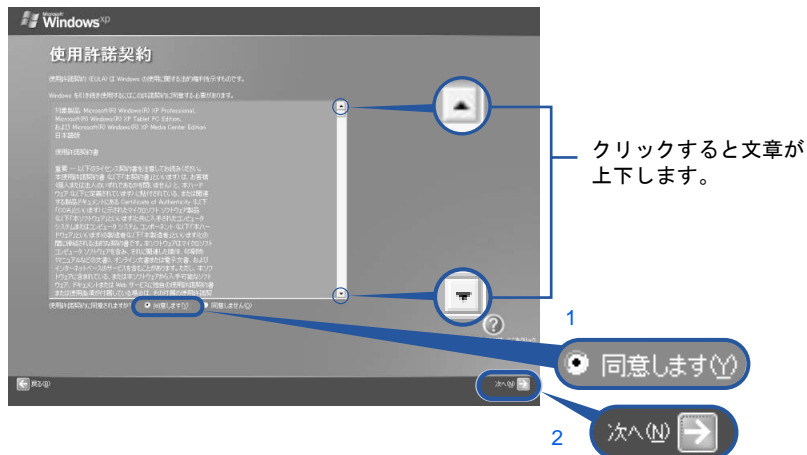


マウスを持ち上げている間はマウスポインタは動きません。

ボタンは軽く押すだけで OK!

力を入れて押す必要はありません。マウスのボタンはカチッと 1 回押したら、すぐ指を離すようにします。


- 8** **1 Windows の使用許諾契約書の内容をご覧になり、ご同意いただけるときは「同意します」をクリックして**  **にし、** **2 「次へ」の右の**  **をクリックします。**



重要

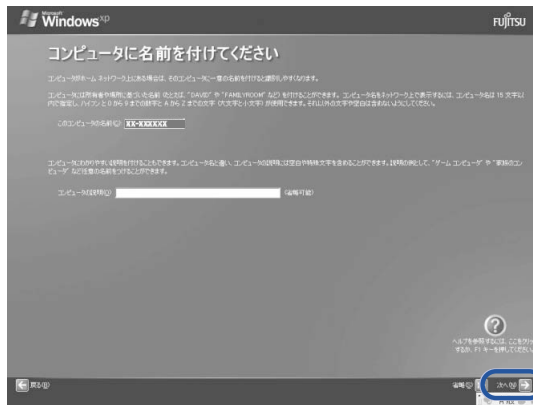
「同意しません」をクリックした場合

「続ける前に ...」という画面が表示されます。使用許諾契約書にご同意いただけないと、このパソコンはお使いになれません。

手順 8 の画面に戻るには、表示された画面で「戻る」の左の  をクリックしてください。

9 「次へ」の右の➡をクリックします。

ここでは何も入力しません。コンピュータの名前は後から入力できます。詳しくは、Windows のヘルプを「アカウント」で検索し、「ユーザーのアカウントの種類を変更する」または「ユーザーのグループまたはアカウントの種類を変更する」をご覧ください。



次の画面が表示されるまでお待ちください。

重要

ホームサーバー機能内蔵の機種の場合

コンピュータの名前を「FNPC」から変更しないでください。
このコンピュータ名を変更すると、ホームサーバー機能が正常に動作しません。

手順 10、11 の画面は Windows XP Professional の場合のみ表示されます。Windows XP Home Edition の場合は表示されないので、手順 12 へ進んでください。

10 「次へ」の右の➡をクリックします。

ここでは何も入力しません。管理者パスワードは後から設定できます。



11 1「いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません」の左が☑になっていることを確認し、2「次へ」の右の➡をクリックします。

ドメインの設定は後から行えます（詳しくは Windows のヘルプをご覧ください）。



12 「次へ」の右の➡をクリックします。



POINT

こんな画面が出た！

「インターネット接続が表示されませんでした」または「インターネットに接続する方法を指定してください」という画面が表示された場合は、「省略」の右の➡をクリックします。インターネット接続の設定は、セットアップが最後まで終わってから、「通信の回線を接続する」(▶▶P.60)をご覧ください。

- 13** 1 「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックして●にし、2 「次へ」の右の➡をクリックします。



POINT

「はい、今すぐユーザー登録します」を選択して進んでしまった場合

「ユーザー登録情報を入力してください」という画面で「戻る」の左の⏪をクリックして、手順 13 からやり直します。

「今すぐインターネットアクセスのセットアップを行いますか?」という画面が表示された場合

「いいえ、今回はインターネットに接続しません」をクリックして●にし、「次へ」の右の➡をクリックします。

- 14** 「完了」の右の➡をクリックします。



次の画面が表示されるまで、少し時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。

「必ず実行してください」の実行

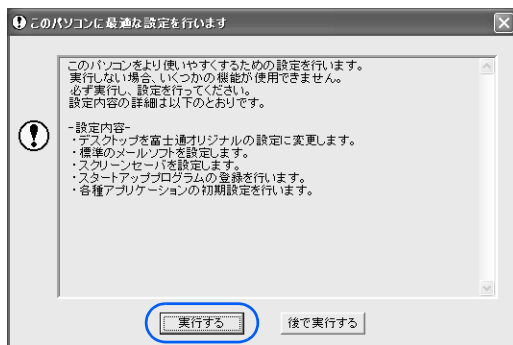
15 1「スタート」ボタン→2 必ず実行してください の順にクリックします。

必ず実行してください は、パソコンの初期設定を行うプログラムです。以降の手順は最後まで必ず実行してください。実行しないと、いくつかの機能がお使いになれません。



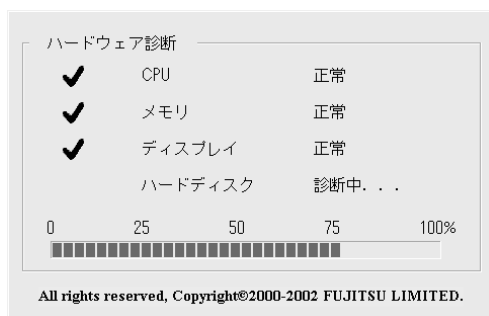
(これ以降の画面は状況により異なります)

16 「実行する」をクリックします。



17 ハードウェア診断が始まり、次の画面が表示されます。手順 18 の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

途中、ディスプレイを診断する画面なども表示されます。

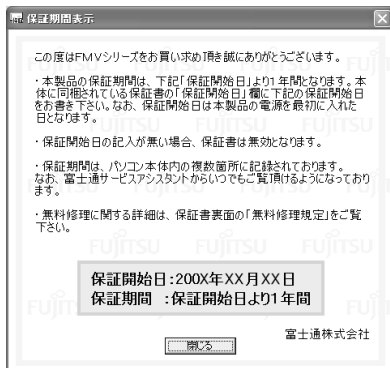


重要

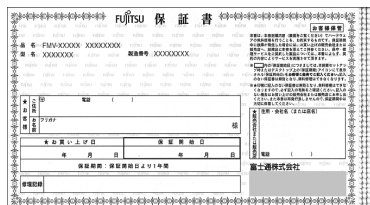
ハードウェア不良の画面が表示された場合
画面の指示に従ってください。

電源を切らずに次のページへ

18 この画面が表示されたら、保証書を用意します。



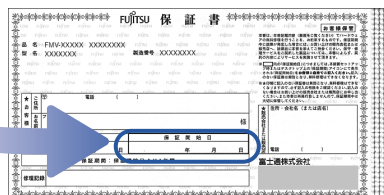
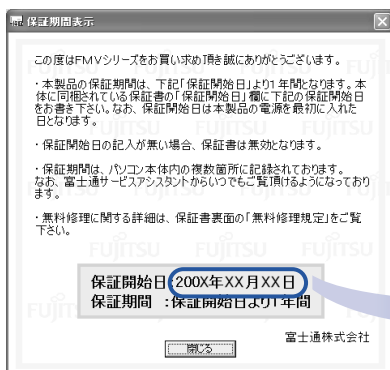
保証書は梱包箱に貼り付けられています。



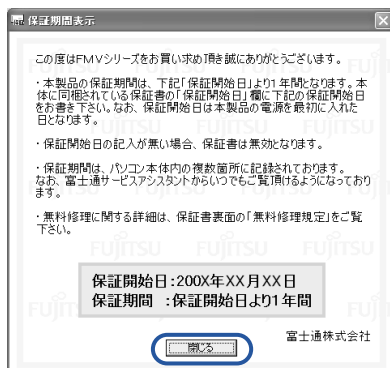
19 画面に表示された保証開始日を、保証書に書き写します。

保証書に保証開始日が記入されていないと、保証期間内であっても有償での修理となります（なお、保証開始日は本製品の電源を最初に入れた日になります）。

保証書は大切に保管してください。

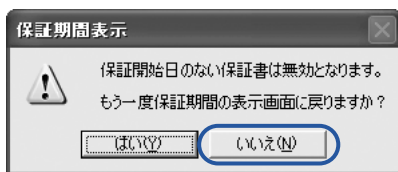


20 「閉じる」をクリックします。

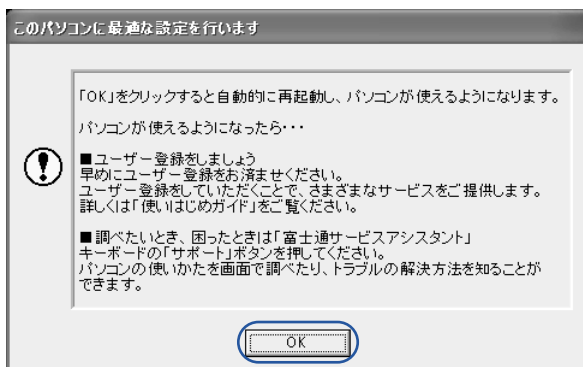


21 次の手順に進んで良ければ「いいえ」をクリックします。

もう一度保証期間を確認したいときは「はい」をクリックしてください。



22 「OK」をクリックします。



画面がいったん暗くなり、パソコンの再起動が始まります。

次の画面が表示されるまで少し時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。

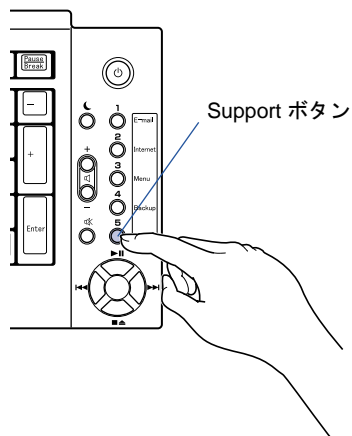
23 画面が表示されたことを確認します。



サービスアシスタントの起動・終了方法

サービスアシスタントは、パソコンの操作でわからないことがあったとき、困ったときにご覧ください。ここでは、サービスアシスタントを一度起動・終了してみます。

24 キーボードの「Support」ボタンを押します。



POINT

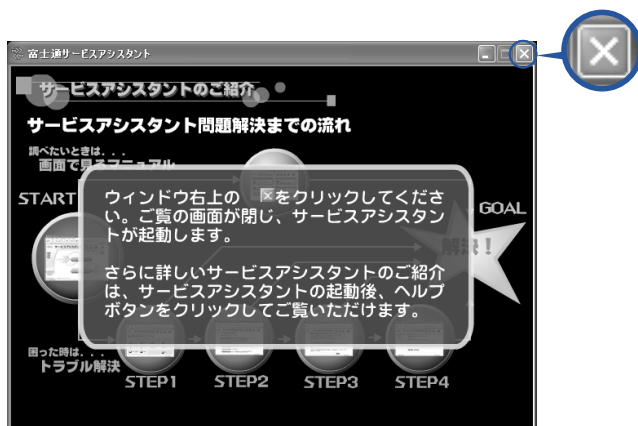
機種を選択する画面が表示されたときは

別紙などで特に指示がない限り、お使いの機種名（品名）を選んでください。
機種名の調べ方は「機種名を確認してください」(●▶P.16)をご覧ください。

25 しばらくの間「サービスアシスタントのご紹介」を最後までご覧ください。

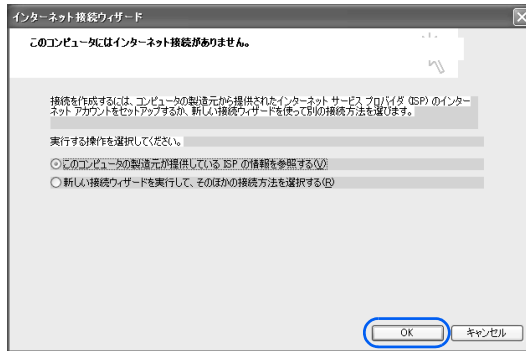
「サービスアシスタント」の内容や使い方について、音声と映像で説明しています。

26 次の画面が表示されたら、**X**をクリックします。



27 「OK」をクリックします。

インターネット接続の設定は後で行います。ここではインターネットに接続しません。



POINT

最新のサポート情報をインターネットでご案内しています

サービスアシスタントには、インターネットを使って最新のサポート情報を表示する機能があります。この機能はインターネット接続の設定を行うと利用できるようになります。セットアップが最後まで終わってから「通信の回線を接続する」(●▶P.60)をご覧ください、設定してください。

@nifty を紹介する画面が表示されます。@nifty に入会したい方は、『使いはじめガイド』をご覧ください、後で入会手続きを行ってください。



28 ウィンドウ右上にある **X** をクリックします。



サービスアシスタントが起動します。



これがサービスアシスタントの最初の画面です。「ヘルプ」をクリックすると詳しい使い方がわかります。

29 続けてセットアップを行うので、サービスアシスタントの最初の画面で「終了」をクリックし、サービスアシスタントを終了します。



30 「はい」をクリックします。



サービスアシスタントが終了します。

POINT

この後、続けて操作を行ってください。

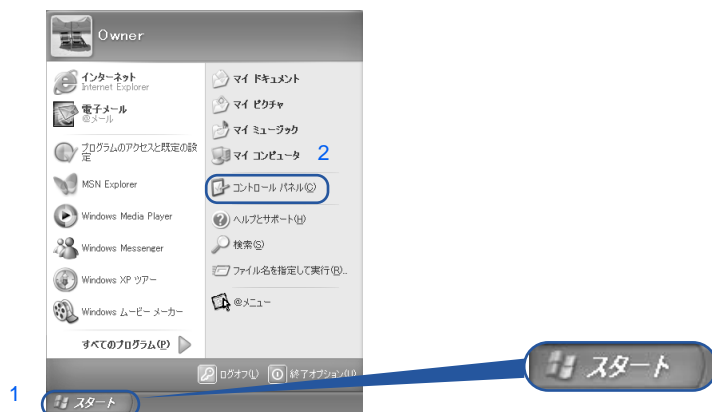
この後の所在地情報の設定は、インターネットに接続するときなどに必要になります。このまま手順を最後まで続けてください。

これ以降、サービスアシスタントを起動するには


キーボードの「Support」ボタンを押してください。手順 25 ~ 28 の画面は、サービスアシスタントを初めて起動したときだけ表示されます。

所在地情報の設定

31 1「スタート」ボタン→2「コントロールパネル」の順にクリックします。

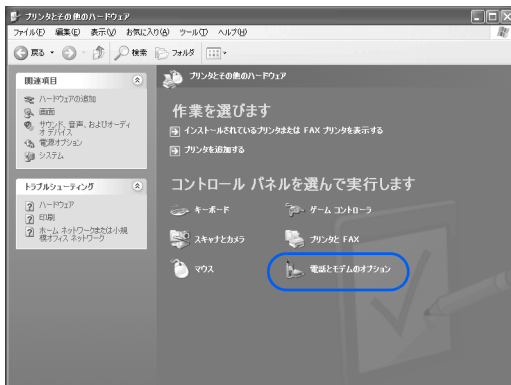


(これ以降の画面は、機種や状況により異なります)

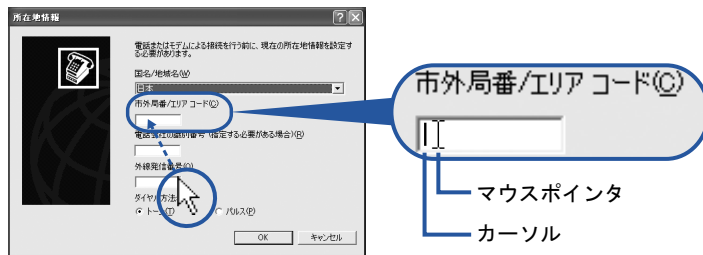
32  「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。



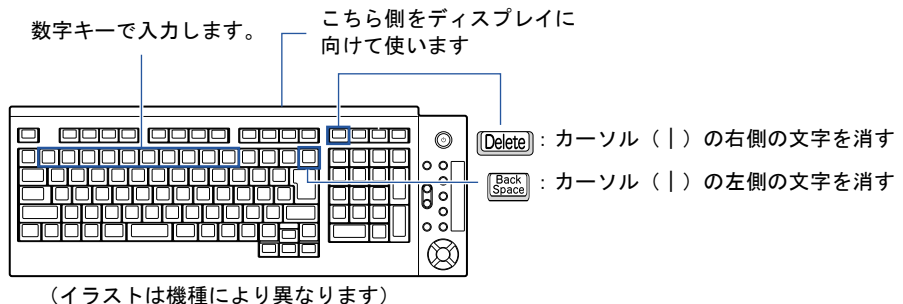
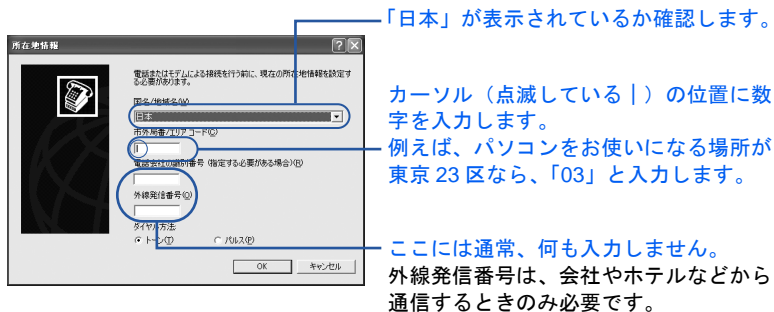
33  「電話とモデムのオプション」をクリックします。



34 「市外局番」の下の空欄にマウスを合わせ、Iに変わったらクリックします。 クリックすると文字を入力するためのカーソル（|）が点滅して表示されます。



35 パソコンをお使いになる場所の市外局番を入力します。



POINT

キーボードの向きに注意！

ワイヤレスキーボードは図の上側をディスプレイに向けて使います。

数字が入力できない場合

市外局番の欄にカーソル（|）が点滅していることを確認してください。
カーソル（|）がない場合は、入力したい欄をクリックしてカーソルを表示させます。

文字を消したい場合

カーソル（|）の左側の1文字を消すには：[Back Space] を押します。
カーソル（|）の右側の1文字を消すには：[Delete] を押します。

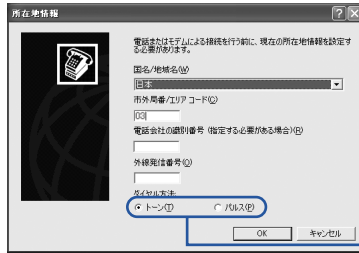
「入力した文字が無効です」と表示された場合

画面右下が [A] になっていない場合は、[Enter] を押します。

市外局番を入力せずに「OK」をクリックしてしまった場合

「電話とモデムのオプション」という画面が表示されます。「編集」をクリックし、市外局番を入力した後、次の手順に進んでください。手順 37 までは画面が異なりますが、手順に従って、該当する項目を操作してください。

36 ダイヤル方法を設定します。



インターネットなどに使う電話回線のダイヤル方法を設定します。詳しくは、次のPOINTをご覧ください。
回線の種類がわからない場合は、「トーン」をクリックしてください。

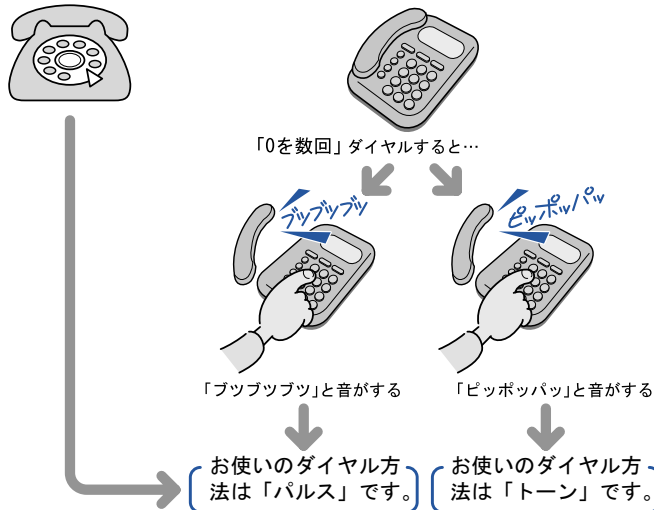
POINT

一般の電話回線を使う場合

ダイヤル方法は次の方法で確認します。

ダイヤル式電話機をお使いの場合

プッシュ式電話機をお使いの場合



POINT

ISDN 回線や携帯電話／PHS をお使いになる場合

ダイヤル方法は、「トーン」です。

どうしても電話回線のダイヤル方法がわからない場合

ご契約の電話会社へ直接お問い合わせください。

なお、次のサービスをお使いの場合はうまく通信できないことがあります。

- ・ ホームテレホン
- ・ キャッチホン
- ・ ビジネスホン

設定した市外局番や電話回線のダイヤル方法を変えたい場合

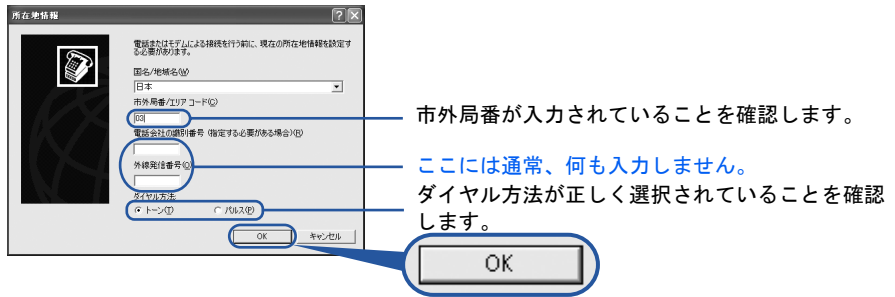
引っ越しなどで後から市外局番やダイヤル方法の設定を変えたいときは、次のように設定し直します。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「プリンタとその他のハードウェア」→「電話とモデムのオプション」の順にクリックします。
3. 「ダイヤル情報」タブの設定を変更します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウの **X** をクリックします。

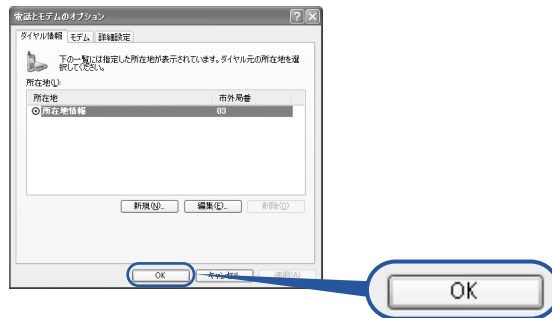
電源を切らずに次のページへ

37 正しく入力できているか確認し、「OK」をクリックします。

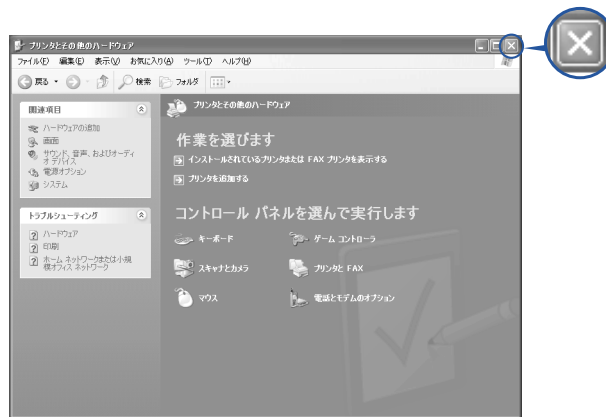
正しく入力されていないと、インターネットに接続できません。



38 「OK」をクリックします。



39 「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウの **X** をクリックします。




これで Windows のセットアップは終わりです。

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は、引き続き『ホームサーバー機能 取扱説明書』をご覧ください、ホームサーバー機能のセットアップを行ってください。

 **POINT****アプリケーションを起動するには**

アプリケーションは、@メニューから起動してください（@メニューには、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」から起動できないアプリケーションも登録されています）。

詳しくは、『使いはじめガイド』→「使いはじめ編」→「このパソコンでできることを調べる」→「FMVの楽しみかた」をご覧ください。

続いて、電源の切り方と入れ方を覚えましょう（[▶P.48](#)）。

ホームサーバー機能運用時について

ホームサーバー機能内蔵モデルでは、ホームサーバー機能を動作させるため、パソコン本体の電源には関係なく常にホームサーバー機能側の電源が入っています。

また、他のパソコンや外出先からのモバイルアクセスによってファミリーネットワークウェアを利用すると、パソコン本体側の機能を利用するために、ホームサーバー機能側から自動的にパソコン本体を起動させる場合があります。

2 電源の切り方と入れ方

電源の切り方と入れ方はとても重要です。正しい方法を覚えてください。



・ CD/DVD などを取り出す場合は、CD/DVD ドライブのトレイに指などを入れない
てください。けがの原因となることがあります。

電源を切る

お使いの機種によって、電源の切り方が異なります。

お使いの機種	電源の切り方
L20C/F をお使いの方、または L20CN でホームサーバー機能内蔵の機種を選択した方	このページから始めます。
L20C/R、L20C/S、L20C、L20C/CN をお使いの方、または L20CN でホームサーバー機能を内蔵していない機種を選択した方	「ホームサーバー機能を内蔵していない機種の場合」(●▶P.55) をご覧ください。

ホームサーバー機能内蔵の機種の場合

通常は休止状態で運用します。このページからご覧ください。

電源ケーブルをコンセントから抜き、完全に電源を切りたい場合は、「電源ケーブルをコンセントから抜く場合」(●▶P.50) をご覧ください。

■ 通常の運用の場合 (電源ケーブルをコンセントから抜く必要がない場合)

1 それまで行っていた作業を終了します。

アプリケーションを起動している場合は、作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了します。

例えばワープロソフトを使って文書を作成中の場合は、文書データを保存し、ワープロソフトを終了します。

POINT

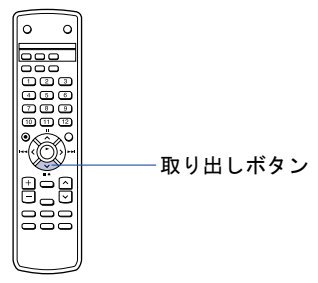
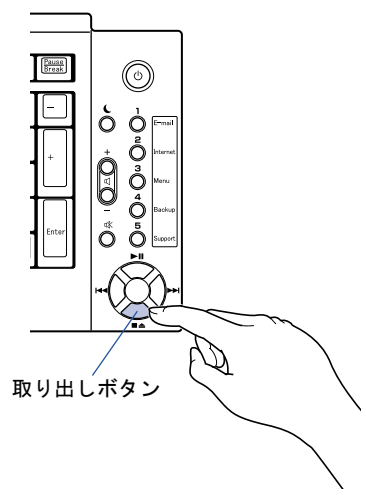
アプリケーションを終了しなかった場合

アプリケーションを起動したままこれ以降の操作を進めると、途中で作業中のデータを保存するか確認するメッセージが表示されることがあります。誤動作の原因となるので、あらかじめアプリケーションを終了してください。

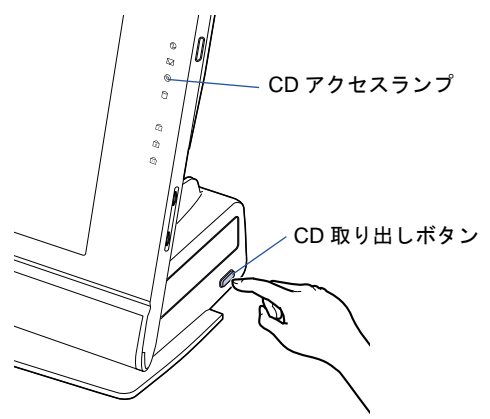
2 CD/DVD などを取り出します。

セットされているときは取り出します。

- ワイヤレスキーボードの場合
- リモコンの場合



- パソコン本体の場合



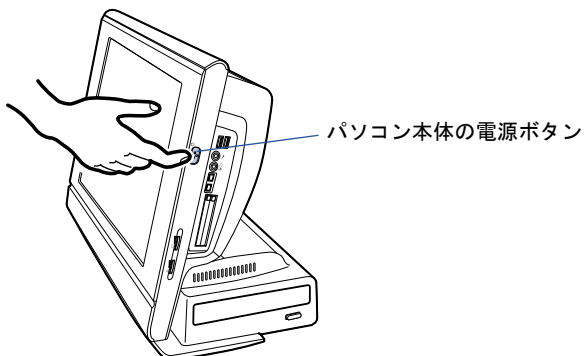
POINT

CD や DVD などを入れたままだと

パソコンの電源を切ってしまうと、CD や DVD などは取り出せません。

3 パソコン本体の電源ボタンを押します。

ただし、電源ボタンは4秒以上押し続けしないでください。電源ボタンを4秒以上押し続けると、Windowsなどの正常な終了処理ができないまま、強制的に電源が切れてしまいます。



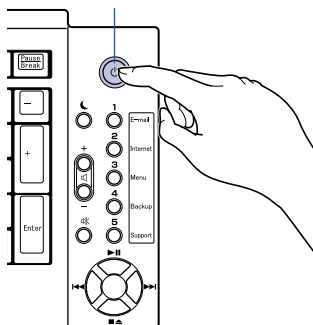
しばらくすると、Windowsが終了し、パソコン本体が休止状態になります。

POINT

電源を切る（休止状態にする）ときは

- ・ワイヤレスキーボードの電源ボタンでも電源を切る（休止状態にする）ことができます。
- ・リモコンの電源ボタンでも電源を切る（休止状態にする）ことができます。
リモコンの電源ボタンは約1秒間押ししてください。

ワイヤレスキーボードの電源ボタン



リモコンの
電源ボタン



次の方法でも休止状態にすることができます

1. 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
2. **[Shift]**を押して「スタンバイ」が「休止状態」に変わったことを確認します。
3. そのまま**[Shift]**を押しながら「休止状態」をクリックします。
しばらくするとWindowsが終了し、パソコン本体の電源が自動的に休止状態になります（画面が暗くなり、パソコン本体の電源ランプが消えます）。

■電源ケーブルをコンセントから抜く場合

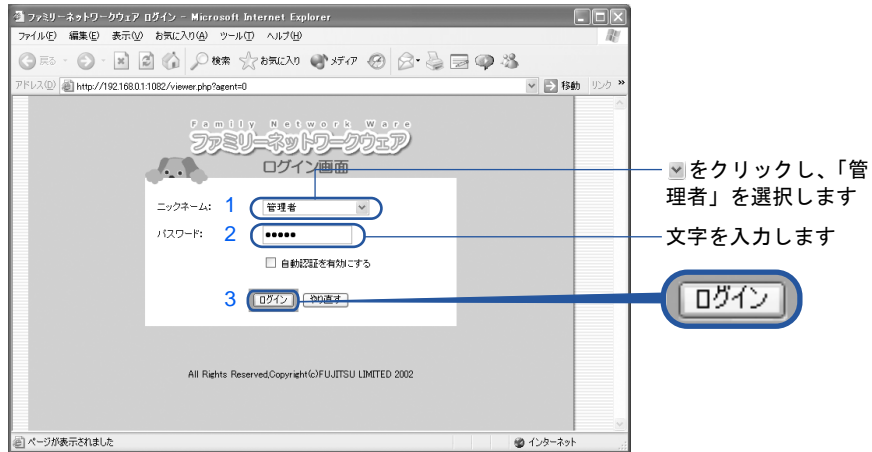
ホームサーバー機能のシステムを停止してから電源を切ります。次の手順に従ってください。

1 デスクトップの (ファミリーネットワークウェアスタートページ) をクリックします。

「ファミリーネットワークウェア ログイン」ウインドウが表示されます。

2 「管理者」でログインします。

1 ニックネームの▼をクリックして「管理者」を選択し、2 パスワードを入力して、3 「ログイン」をクリックします。

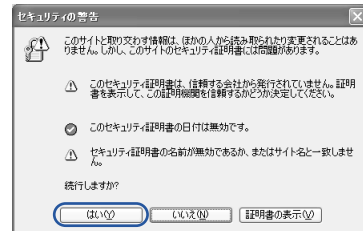
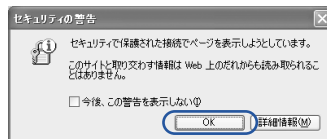


4

POINT

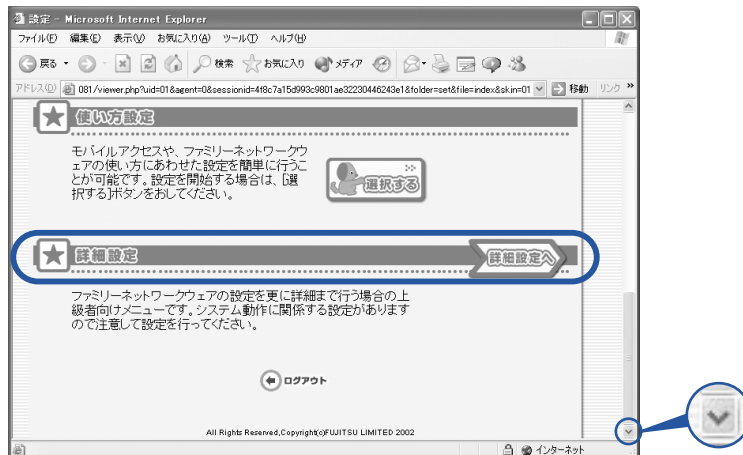
「セキュリティの警告」というウィンドウが表示されたときは

ブラウザの設定によっては、「セキュリティの警告」ウィンドウが表示されることがあります。この場合は「OK」をクリックします。続いて「続行しますか?」と表示された場合は、「はい」をクリックします。



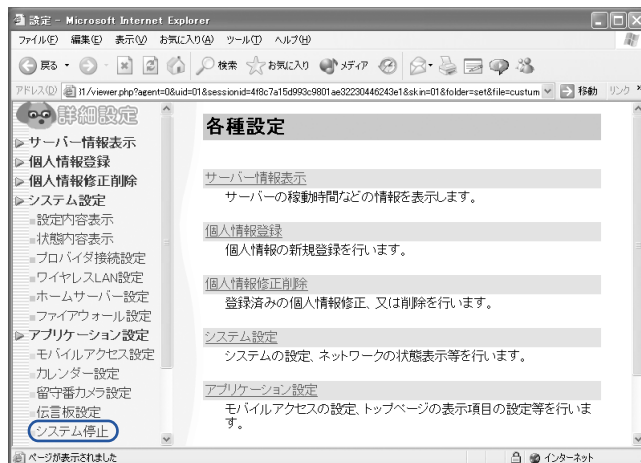
3 「詳細設定」をクリックします。

▼を数回クリックし、「詳細設定」を表示させ、クリックします。

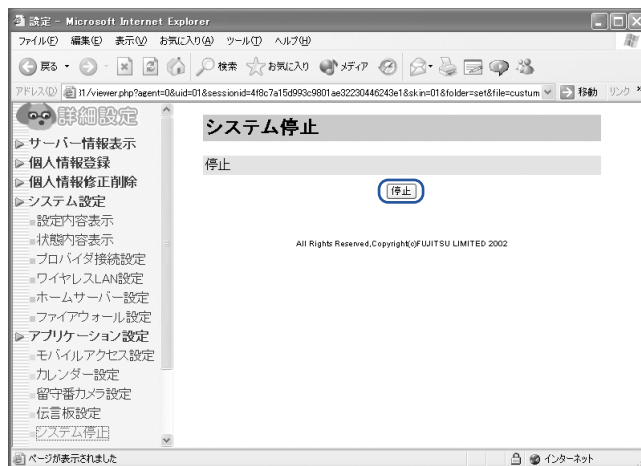


次のページへ

4 「システム停止」をクリックします。

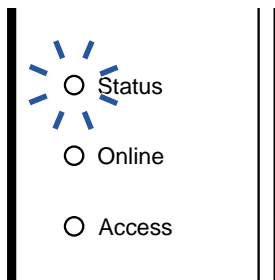


5 「停止」ボタンをクリックします。



ディスプレイ左側の Status ランプが緑色に点滅します。

30 秒ほどそのまま待って Access ランプが光らなくなるのを確認してください。



6 ウィンドウ右上にある **×** をクリックします。



7 「スタート」ボタンをクリックします。

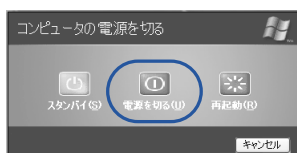


(これ以降の画面は、機種や状況により異なります)

8 「終了オプション」をクリックします。



9 「電源を切る」をクリックします。




しばらくすると Windows が終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます (画面が暗くなり、パソコン本体の電源ランプが消えます)。

POINT

電源が切れない場合

パソコンが動かなくなり（マウスやキーボードが操作できないなど）、電源が切れないときは、次のように操作してください。

[Ctrl] と **[Alt]** を押しながら **[Delete]** を押してアプリケーションを強制終了し、その後で電源を切ってください。アプリケーションの強制終了については、『トラブル解決ガイド』→「Q & A 集」→「画面の表示がおかしい、操作ができないトラブル」→「Q 操作中に画面が動かなくなった」をご覧ください。

強制終了できないときは、パソコン本体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切ってください。

電源を切った後、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、スタンバイ状態になっているため電源が切れていません。もう一度電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

10 電源ケーブルを、コンセントから抜きます。

ディスプレイ左側の Status ランプが消えます。

重要

電源ケーブルを抜くときは

電源ケーブルをコンセントから抜くときは、先に電源プラグを抜いてからアース線を外してください。

11 パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

続いて、電源の入れ方を覚えましょう（▶P.58）。

ホームサーバー機能を内蔵していない機種の場合

1 それまで行っていた作業を終了します。

アプリケーションを起動している場合は、作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了します。

例えばワープロソフトを使って文書を作成中の場合は、文書データを保存し、ワープロソフトを終了します。

POINT

アプリケーションを終了しなかった場合

アプリケーションを起動したままでもこれ以降の操作を進められますが、途中で作業中のデータを保存するか確認するメッセージが表示されることがあります。誤動作の原因となるので、あらかじめアプリケーションを終了しておくことをお勧めします。

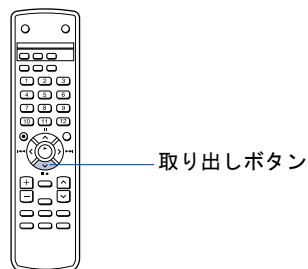
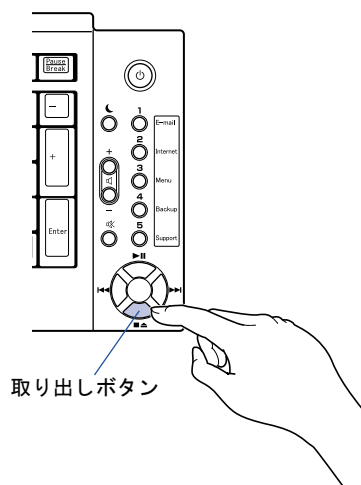
4

2 CD/DVD などを取り出します。

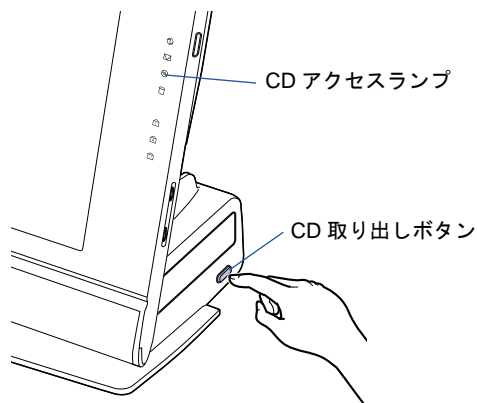
セットされているときは取り出します。

■ ワイヤレスキーボードの場合

■ リモコンの場合



■ パソコン本体の場合



次のページへ

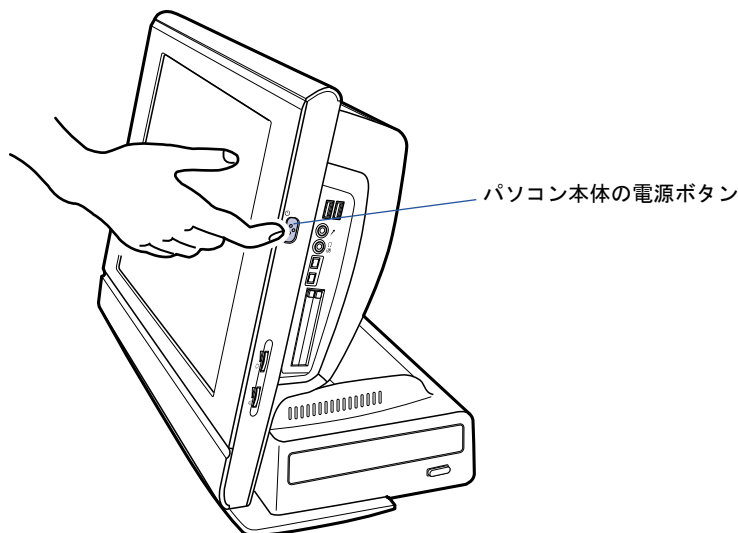
POINT

CD や DVD などを入れたままだと

パソコンの電源を切ってしまうと、CD や DVD などは取り出せません。

3 パソコン本体の電源ボタンを押します。

しばらくすると Windows が終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン本体の電源ランプが消えます）。



重要

電源ボタンは押し続けしないでください

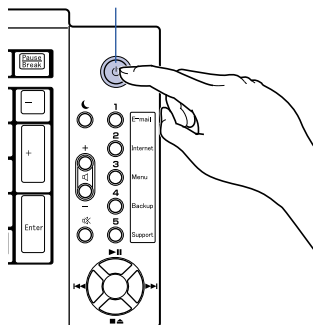
電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、Windows などの正常な終了処理ができないまま、強制的に電源が切れてしまいます。

POINT

電源を切るときは

- ・ワイヤレスキーボードの電源ボタンでも電源を切ることができます。
 - ・リモコンの電源ボタンでも電源を切ることができます。
- リモコンの電源ボタンは約 1 秒間押ししてください。

ワイヤレスキーボードの電源ボタン



リモコンの電源ボタン




POINT**次の方法でも電源を切ることができます**

1. 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
2. 「電源を切る」をクリックします。
しばらくすると Windows が終了し、パソコン本体の電源が自動的に切れます（画面が暗くなり、パソコン本体の電源ランプが消えます）。

電源が切れない場合

パソコンが動かなくなり（マウスやキーボードが操作できないなど）、電源が切れないときは、次のように操作してください。

(Ctrl) と **(Alt)** を押しながら **(Delete)** を押してアプリケーションを強制終了し、その後で電源を切ってください。アプリケーションの強制終了については、『トラブル解決ガイド』→「Q & A 集」→「画面の表示がおかしい、操作ができないトラブル」→「Q 操作中に画面が動かなくなった」をご覧ください。

強制終了できないときは、パソコン本体の電源ボタンを 4 秒以上押し続けて強制的に電源を切ってください。

電源を切った後、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。電源ランプがオレンジ色に点灯しているときは、スタンバイ状態になっているため電源が切れていません。もう一度電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

4 パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

続いて、電源の入れ方を覚えましょう（[▶▶P.58](#)）。

電源を入れる

👉 重要

電源を入れるときの注意

- ・電源を切った後は、次に電源を入れ直すまで、10 秒ほどお待ちください。

- 1 パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 電源ケーブルがコンセントに接続されていない場合は、電源プラグをコンセントに差し込みます。

🔍 POINT

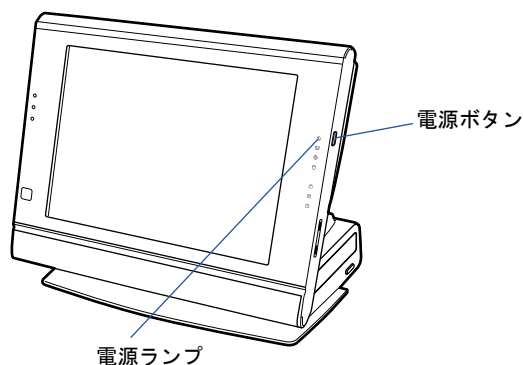
ホームサーバー機能内蔵の機種の場合

自動的にパソコン本体の電源が入り、Status ランプがオレンジ色に点灯します。そのまましばらくお待ちください（起動には約 1～2 分かかります）。

パソコン本体の電源ボタンを押す必要はありません。

- 3 パソコン本体の電源ボタンを押します。

パソコン本体の電源ランプが点灯し、画面にさまざまな文字などが表示されます。そのまま、しばらくお待ちください。



このような画面が表示されたことを確認します。



(画面は機種や状況により異なります)

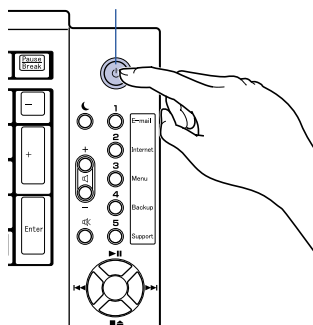
POINT

電源を入れるときは

- ・ワイヤレスキーボードの電源ボタンでも電源を入れることができます。
- ・リモコンの電源ボタンでも電源を入れることができます。

リモコンの電源ボタンは約1秒間押してください。


ワイヤレスキーボードの電源ボタン



リモコンの
電源ボタン



Windows が起動しない場合

電源を入れても Windows が起動しないときは、『トラブル解決ガイド』→「Q & A 集」→「電源が入らない、画面が表示できないトラブル」をご覧ください。

続いて、通信の回線を接続しましょう (●▶P.60)。

3 通信の回線を接続する

このパソコンでオンラインユーザー登録やインターネットを利用するためには、回線接続などの準備が必要です。

こんな方法があります

次の方法でインターネットに接続することができます。ご自分に合った方法を選んでください。それぞれの接続や設定方法については、参照先のページをご覧ください。

一般の電話回線を使う

一般に使われている電話回線を使う方法です。このパソコンに内蔵されているモデムと、添付のモジュラーケーブルを使って接続できます。詳しくは、「一般の電話回線を使う場合」(▶P.61)をご覧ください。

ISDN 回線を使う

ISDN 回線を使う方法です。一般の電話回線に比べて、高速で安定した通信ができます。ISDN 回線を使うには、市販の DSU (ディーエスユー) およびターミナルアダプタ (TA) という装置が必要です。また、NTT へ ISDN 回線利用の申し込みが必要です。詳しくは、「ISDN 回線を使う場合」(▶P.65)をご覧ください。

携帯電話 / PHS を使う

パソコンに携帯電話や PHS をつなげてインターネットに接続する方法です。携帯電話 / PHS 本体のほかに接続ケーブルが必要です。詳しくは、「携帯電話 / PHS を使う場合」(▶P.66)をご覧ください。

ADSL 回線を使う

一般の電話回線 (アナログ回線) を使って、ISDN よりさらに高速にインターネットに接続する方法です。ADSL 回線を使うには、回線事業者 (ADSL 接続サービスの提供会社) へ ADSL 回線利用を申し込む必要があります。詳しくは、「ADSL 回線を使う場合」(▶P.67)をご覧ください。

ADSL 以外にも、次のような高速ブロードバンド・インターネットもご利用いただけます。

- ・ ケーブルテレビ (CATV) インターネット
- ・ 光ファイバー (FTTH)

ブロードバンドについて詳しくは、☎(サービスアシスタント) の最初の画面 → 「画面で見るマニュアル」 → 「FMV でインターネット」をご覧ください。

ホームサーバー機能内蔵の機種の場合は、ADSL、CATV、FTTH などの高速ブロードバンドインターネットでのご利用が前提です。詳しくは、「ホームサーバー機能を使う (ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方)」(▶P.75)をご覧ください。

一般の電話回線を使う場合

パソコンに内蔵されているモデムと、添付のモジュラーケーブルを使って、一般の電話回線と接続する方法です。

モデム名

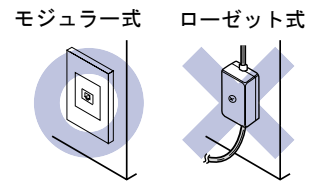
このパソコンの内蔵モデムは「FMV-FX52Z2 (D)」と表示されます。画面上でモデム名を選ぶ際は、このモデム名を選んでください。

確認する

■ 電話回線の差し込み口

ローゼット式の場合は、モジュラー式の差し込み口への変更が必要です。

変更作業は、工事担当者またはその監督の下で行ってください。最寄りのNTTの営業所または支店へ変更工事を依頼することもできます。



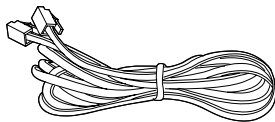
■ 通信回線の種類

接続する前に、通信回線が一般の電話回線（アナログ）であることをNTTに確認してください。

必要なものを用意する

次のものを用意してください。

■ モジュラーケーブル（電話線）



電話回線を接続する



- ・ 近くで落雷のおそれがある場合は、すべての接続作業を中止してください。落雷による感電の恐れがあります。

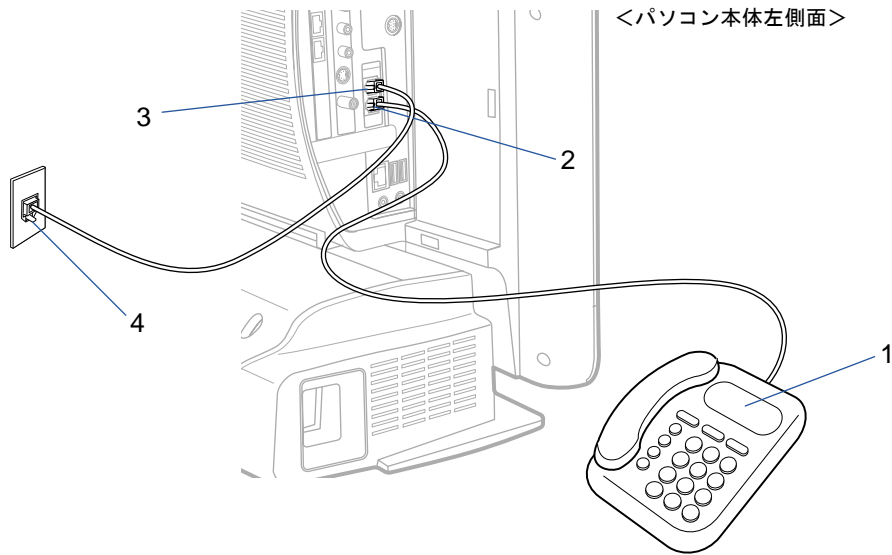


- ・ 電話回線の差し込み口（モジュラージャック）に指などを入れしないでください。感電の原因となることがあります。

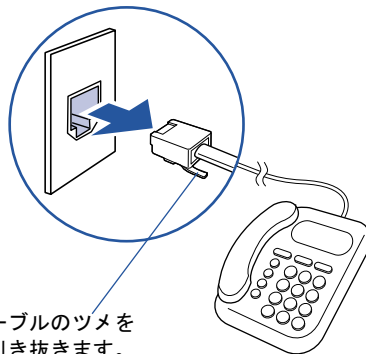


- ・ モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずモデムコネクタに接続してください。別のコネクタに接続すると故障の原因となる場合があります。

次の方法で添付のモジュラーケーブル（電話線）をパソコン本体に接続します。

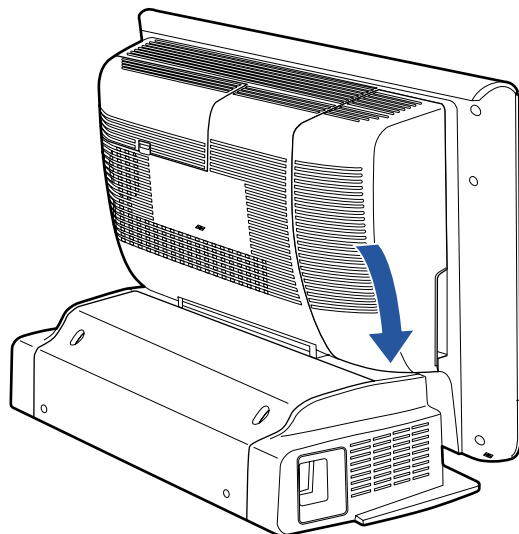


- 1 お使いになっている電話機のモジュラーケーブルを電話回線の差し込み口から外します。



モジュラーケーブルのツメを
押さえながら引き抜きます。

2 パソコン本体左側面のカバーを取り外します。



4

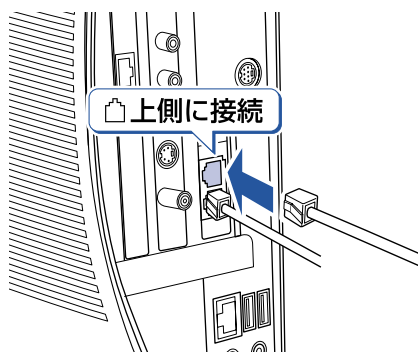
3 手順 1 で外したモジュラーケーブルをパソコン本体に接続します。

差し込み口の位置をよく確認し、カチッと音がするまで差し込んでください。



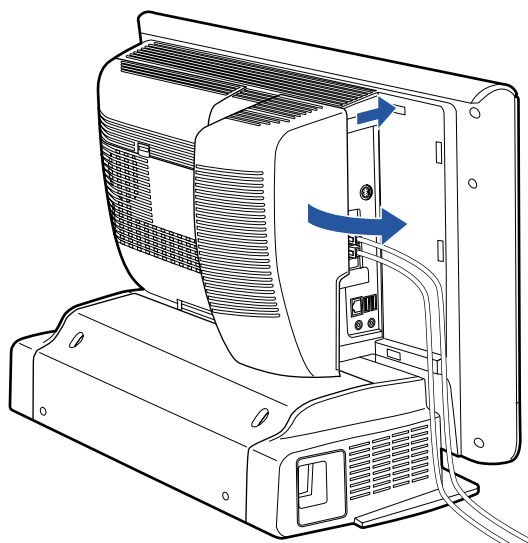
4 添付のモジュラーケーブルをパソコン本体に接続します。

差し込み口の位置をよく確認し、カチッと音がするまで差し込んでください。

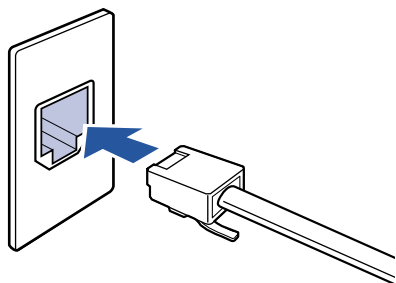


次のページへ

- 5** 手順 2 で外したカバーを取り付け、モジュラーケーブルを外に出します。
カバーを取り付ける際、ケーブルをはさまないようにしてください。



- 6** 添付のモジュラーケーブルを電話回線の差し込み口に接続します。
手順 4 でパソコン本体に接続したモジュラーケーブルの反対側を差し込みます。



POINT

モジュラーケーブル使用上の注意

- ・モジュラーケーブルは家電製品などの近くを経由させたり束ねて利用したりすると、うまく通信できない場合があります。
- ・パソコンの設置場所が電話回線の差し込み口から遠く、添付のモジュラーケーブルでは長さが足りない場合は市販品をご購入ください。ただし、モジュラーケーブルを長くすると、回線速度が低下したり、うまく通信できないことがあります。

インターネットについては、☎(サービスアシスタント)の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「FMVでインターネット」をご覧ください。

続いて、ユーザー登録をしましょう (▶▶P.68)。

ISDN 回線を使う場合

一般の電話回線に比べて高速で安定した通信ができる電話回線を使って、インターネットに接続する方法です。

ISDN 回線を利用するためには、NTT への申し込みが必要です。また、電話回線の工事が必要となります（詳しくは、お近くの NTT にお問い合わせください。なお、ISDN 回線利用申し込みと同時に、工事申し込みとなります）。

必要なものを用意する

次のものを用意してください。ISDN 回線ではパソコンの内蔵モデムの代わりに DSU とターミナルアダプタ (TA) を使います。DSU を内蔵した TA も発売されていますので、こちらを使うと、配線や接続が楽になります。

■ DSU (ディーエスユー) (別売)

■ ターミナルアダプタ (TA) (別売)

お使いの Windows に対応した TA を用意してください。

■ 専用ケーブル (別売)

DSU、TA を準備する

次の作業を行います。詳しくは、お使いの DSU や TA のマニュアルをご覧ください。

- ・パソコンと DSU、TA を ISDN 回線に接続します。
- ・TA のドライバをインストールします。
パソコンに、TA を使うためのソフトウェア (ドライバ) をインストールします。




注意



感電 ・ ISDN 回線の差し込み口 (モジュージャック) に指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。



発火 ・ このパソコンを ISDN 回線に直接接続しないでください。火災・故障の原因となることがあります。必ず DSU および TA、もしくは DSU 内蔵 TA を経由して接続してください。

インターネットについては、 (サービスアシスタント) の最初の画面 → 「画面で見るマニュアル」 → 「FMV でインターネット」をご覧ください。

続いて、ユーザー登録をしましょう (▶▶P.68)。

携帯電話／PHS を使う場合

携帯電話／PHSと別売の接続用USBケーブルを使ってインターネットに接続する方法です。携帯電話／PHSをお持ちでない方は、携帯電話／PHSを購入し、移動体通信業者と別途契約する必要があります。

必要なものを用意する

お使いの携帯電話やPHSに対応したケーブルを用意してください。

■ デジタル携帯電話または PHS

お使いになれる機種については、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET (<http://www.fmworld.net/>) をご覧ください。

■ 携帯電話／PHS 接続用 USB ケーブル

携帯電話接続用 USB ケーブル	デジタル携帯電話とパソコンを接続する場合は、別売の FMV-CBL11S または FMV-CBL101 をお使いください。
PHS 接続用 USB ケーブル	PIAFS (ピアフ) 対応の PHS とパソコンを接続する場合は、別売の FMV-CBL12S または FMV-CBL102 をお使いください。
PHS 接続用 USB ケーブル (H ^W 対応)	DDI ポケットの H ^W などの対応電話機とパソコンを接続する場合は、別売の FMV-CBL103 をお使いください。
PHS 接続用 USB ケーブル (AirH ^W 対応)	DDI ポケットの AirH ^W などの対応電話機とパソコンを接続する場合は、別売の FMV-CBL15S をお使いください。
cdmaOne 接続用 USB ケーブル	cdmaOne 方式の携帯電話とパソコンを接続する場合は、別売の FMV-CBL104 をお使いください。

■ ◎ アプリケーションディスク 1

上記ケーブルのドライバをインストールするときに使います。また、ケーブルを使うときの注意事項が記載された Readme.txt が入っています。

POINT

上記以外のケーブルをお使いになる場合

必ずケーブルのマニュアルをご覧ください。

PIAFS (ピアフ)

PHS Internet Access Forum Standard の略で、PHS によるデジタルデータ通信の標準規格です。PHS のデジタル通信回線 (32/64kbps) を利用して、通信が行えます。

なお、通信事業者によって、64kbps で通信する場合の方式 (ベストエフォート方式とギャランティ方式) が異なり、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末も PIAFS のそれぞれの方式に対応している必要があります。

携帯電話や PHS を接続する方法については、☎(サービスアシスタント) の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「周辺機器を取り付ける」→「携帯電話や PHS を接続する」をご覧ください。


ADSL 回線を使う場合

一般の電話回線（アナログ回線）を使って、ISDN よりさらに高速にインターネットに接続する方法です。

ADSL 回線を利用するためには、回線事業者（ADSL 接続サービスの提供会社）へ ADSL 回線利用を申し込む必要があります。詳しくは、回線事業者にお問合わせください。

重要

ADSL が利用できないケース

お住まいの地域やその他の条件により、ADSL が利用できないケースがあります。詳しくは （サービスアシスタント）の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「FMV でインターネット」→「インターネット入門」→「ブロードバンドの基礎知識」→「ADSL について」をご覧ください。

必要なものを用意する

ご利用になる回線事業者からの指示に従って、LAN ケーブル（別売）など、必要な機器を用意してください。ただし、LAN アダプタ（LAN カード、LAN ボードなどとも呼ばれます）はこのパソコンに内蔵されているので、別途購入する必要はありません。


重要

機器は接続方法・利用形態によって異なります

ADSL 回線の接続方法・利用形態にはいくつかの種類があり、それによって必要な機器が異なります。必ず回線事業者からの指示に従ってください。

機器を接続する

回線事業者へ ADSL 回線利用を申し込み、工事などが終了して ADSL 回線が利用できる状態になったら、用意した機器をパソコンに接続します。詳しくは、ご利用になる回線事業者から提供された書類や、機器のマニュアルをご覧ください。

インターネットについては、（サービスアシスタント）の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「FMV でインターネット」をご覧ください。

続いて、ユーザー登録をしましょう（▶▶P.68）。

4 ユーザー登録をする

通信回線の接続（▶▶P.60）が終わったら、パソコンの画面上でユーザー登録を行います。


POINT

ユーザー登録とは

ユーザー登録とは、FMV のユーザーとしてお客様の情報を弊社に登録していただくことを言います。ユーザー登録をしていただくと、さまざまなサービスをご利用いただけます。

パソコンの画面上でユーザー登録をする

このパソコンでは、パソコンの画面上でユーザー登録ができます。

詳しい操作手順については、『使いはじめガイド』→「使いはじめ編」→「ユーザー登録をする」をご覧ください。

5 準備が完了したら

ここまでの作業が終わると、パソコンの準備は完了です。

パソコンの準備はすべて完了していますか？

これまで説明してきたパソコンの準備が、すべて完了しているか確認してください。再確認したい項目や、完了していない操作については、各参照先に戻って再度確認または操作してください。

- 1 「機種名を確認してください」 (→P.16)
お使いの機種によってマニュアルの読み方が異なります。
- 2 「使用上のお願い」 (→P.17)
このパソコンの取り扱いにあたっての、大切な注意事項です。確認してください。
- 3 「接続する」 (→P.21)
必要な機器が取り付けられているか、確認してください。
- 4 「初めて電源を入れる」 (→P.26)
初めて電源を入れたときに行う操作です。すべての操作を終えているか、確認してください。
- 5 「電源の切り方と入れ方」 (→P.48)
デスクトップの基本的な名称や機能です。
- 6 「通信の回線を接続する」 (→P.60)
お客様の環境に合った回線を接続してください。
- 7 「ユーザー登録をする」 (→P.68)
パソコンの画面上でユーザー登録を行います。

パソコンの準備が完了したら『使いはじめガイド』へ

パソコンの準備が完了したら『使いはじめガイド』をお読みください。このパソコンでできることやインターネットの始め方などが紹介されています。

Smart Display セットモデルをお使いの方は

L20C/S をお使いの方、または L20C/CN で Smart Display セットモデルを選択した方は、パソコンの準備が完了後、◎『Smart Display Companion CD』によるセットアップ作業が必要です。

☐『Smart Display クイックスタートガイド』をご覧になり、Smart Display のセットアップを行ってください。

Memo

5

第 5 章

目的に合わせて接続／設定する

「周辺機器を取り付けたい」、「テレビを見たい」など、目的に合わせてお読みください。

1 周辺機器（メモリなど）を取り付ける	72
2 ホームサーバー機能を使う （ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方）	75
3 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて	77
4 テレビを見る準備をする	88

1 周辺機器（メモリなど）を取り付ける

ここでは、プリンタやメモリなどの周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

POINT

周辺機器とは

プリンタ、デジタルカメラ、メモリなどの装置のことです。パソコンの各種コネクタに接続したり、パソコン本体内部に取り付けたりして、パソコンの機能を拡張したり、処理速度を高めたりできます。



・周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。電源を入れたまま、または電源プラグを接続したままだと、感電・火災または故障の原因となります。



・周辺機器のケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。
・周辺機器、および周辺機器のケーブルは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の周辺機器、および周辺機器のケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

・周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかつたり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

純正品が用意されていない周辺機器については、このパソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。

・Windows のセットアップは終了していますか？

「初めて電源を入れる～ Windows のセットアップ」(●▶ P.27) をご覧になり、Windows のセットアップを行ってください。

なお、セットアップを行うときは周辺機器を取り付けしないでください。セットアップが正常に行われないおそれがあります。

「画面で見るマニュアル」をご覧ください

周辺機器の取り付け方は、「画面で見るマニュアル」の「パソコンの使い方」に記載されています。お使いになる周辺機器のマニュアルとあわせてご覧ください。

「パソコンの使い方」は次の手順でご覧いただけます。

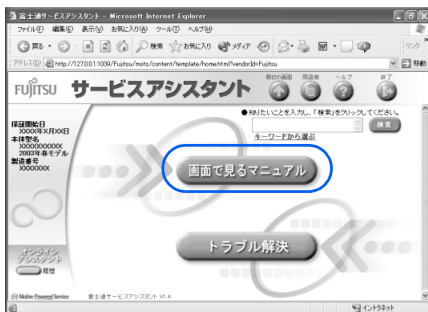
1 キーボードの「Support」ボタン (▶P.14) を押します。 サービスアシスタントが起動します。

POINT

初めて起動すると

初めてサービスアシスタントを起動したときは「サービスアシスタントのご紹介」が表示されます。P.40の手順 25～28 をご覧になり、操作を行ってください。

2 「画面で見るマニュアル」をクリックします。



(これ以降の画面は、機種や状況により異なります)

3 「パソコンの使い方」→「周辺機器を取り付ける」の順にクリックし、取り付けたい周辺機器を選択します。

例えば、メモリを取り付ける場合は、「パソコンの使い方」→「周辺機器を取り付ける」→「メモリを増やす」の順にクリックします。



次のページへ

POINT

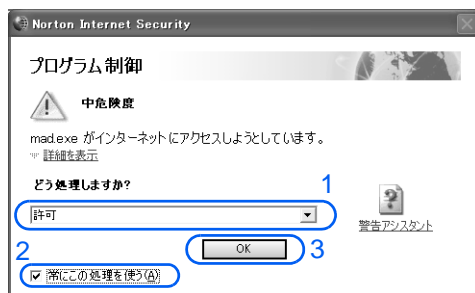
周辺機器によっては、印刷してご覧いただくものがあります

メモリや拡張カードなど、操作の途中で電源を切る必要のある周辺機器については、「パソコンの使い方」の該当ページの先頭に「このページは印刷してご利用ください」と記載されています。操作を始める前に「パソコンの使い方」をプリンタで印刷してご覧ください。

「mad.exe がインターネットにアクセスしようとしています。」というメッセージが表示された場合

このウィンドウは、「Norton Internet Security」というアプリケーションの設定画面です。次の設定を行ってください。

1. をクリックし、「許可」をクリックします。
2. 「常にこの処理を使う」をクリックしてにします。
3. 「OK」をクリックします。



2 ホームサーバー機能を使う（ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方）

ホームサーバー機能について

このパソコンには、ホームサーバー機能が内蔵されています。ホームサーバー機能には、複数のパソコンをインターネットに接続するためのルータ機能や、家族がコミュニケーションするためのアプリケーションが搭載されています。

家庭内の複数のパソコンをつないで、次のようなホームネットワークを構築できます。

- ・ **家族とコミュニケーションする**

「ファミリーネットワークウェア」というアプリケーションを利用して、家族のスケジュールを見たり、伝言を書き込んだりできます。また、思い出の写真など家族の記録をいつでも見ることができます。

- ・ **インターネット接続を共有する**

家庭内の複数台のパソコンでインターネット接続を共有できます。

- ・ **ファイルを共有する**

家族で使うファイルを本装置のハードディスクに保存できます。

- ・ **外出先からアクセスする**


外出先から携帯電話、PDA、パソコンを使って、自宅にある本パソコンにアクセスし、家族のスケジュールを見たり、伝言を書き込んだり、公開しているファイルを見たりできます。また、留守番カメラ機能を使用したり、テレビの番組予約もできます。

- ・ **メールを素早くチェックする**


外出先から本装置にアクセスしているときは、「ファミリーネットワークウェア」の機能である「お手軽メールチェッカー」でメールの内容を参照できます。メールソフトを起動しなくても、ブラウザで手軽に新着メールを読むことができます。

Windows のセットアップが終わったら 『ホームサーバー機能 取扱説明書』へ

ホームサーバー機能には、次のマニュアルがあります。必要に応じてご覧ください。

- ・ 『ホームサーバー機能 取扱説明書』(本のマニュアル)
ホームサーバー機能のセットアップやリカバリ方法、Q&A などが記載されています。
- ・ 「ホームサーバー機能 使い方ガイド」(画面で見るマニュアル)
- ・ 「ホームサーバー機能 管理者ガイド」(画面で見るマニュアル)
操作方法がわからないとき、どんな機能があるのか知りたいときにご覧ください。

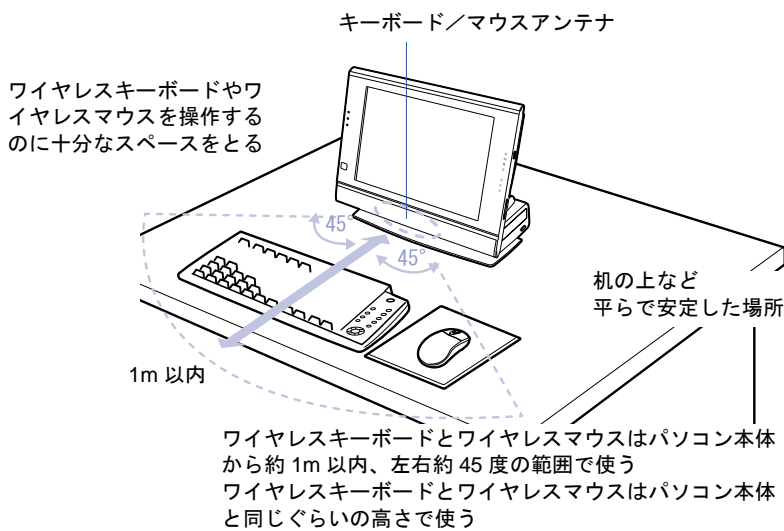
画面で見るマニュアルの開き方

- 1**  (サービスアシスタント) の最初の画面 → 「画面で見るマニュアル」 → 「パソコンの使い方」 → 「ネットワーク」 → 「ホームサーバー機能を使う」の順にクリックします。
- 2** 参照したいマニュアル名称をクリックします。
マニュアルが表示されます。

3 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスについて

使用に適した配置

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスは、次のような場所でお使いください。ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。信号を受けるキーボード／マウスアンテナはパソコン本体に内蔵されています。

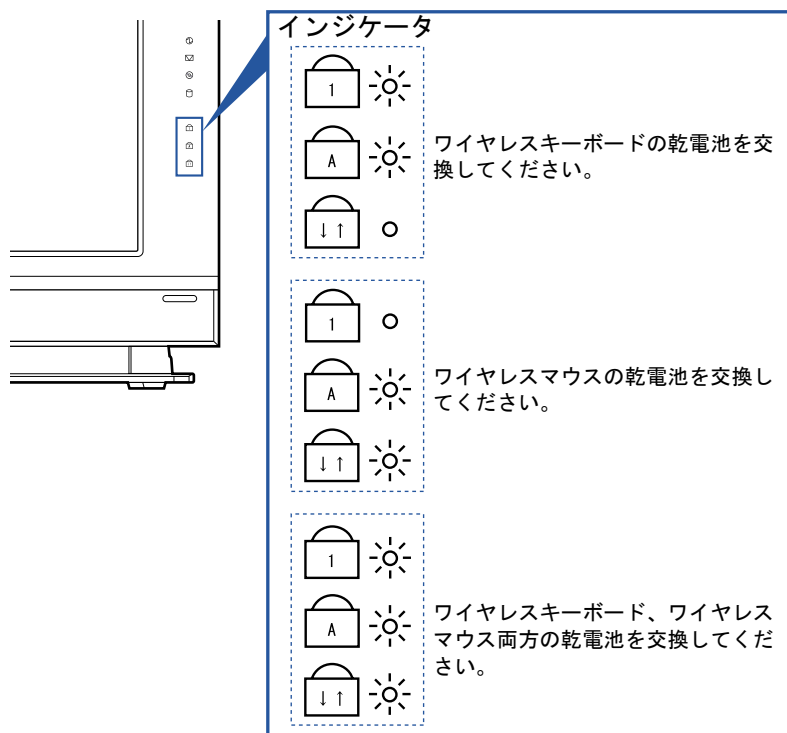


乾電池について

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの乾電池について説明します。

乾電池をお使いになる際は、「乾電池の注意事項」(●▶P.101)も必ずご覧ください。

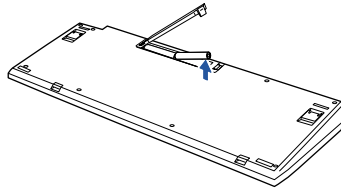
- ・ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。
すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。
- ・乾電池の寿命の目安は、毎日2時間の使用で、ワイヤレスキーボードは約1年、ワイヤレスマウスは約6ヶ月です。
ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります。
乾電池の交換時には、ワイヤレスキーボードは単3型、ワイヤレスマウスは単4型の市販のアルカリ乾電池2本をご使用ください。
- ・必ずアルカリ乾電池をお使いください。
アルカリ乾電池以外の乾電池(マンガン乾電池、充電式乾電池など)をお使いになると、十分な機能・性能で動作しない場合があります。
- ・パソコンを操作していないときは、なるべく動かさないようにしてください。
パソコン本体の電源が入っていても、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスが動作していると乾電池が消費されます。また、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの上に物を載せたままにしないようにご注意ください。
- ・ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスをお使いになっているときに乾電池が消耗すると、パソコン本体のインジケータが点滅します。
次のイラストをご覧ください。インジケータの点滅のしかたにより、どちらの乾電池を交換する必要があるのかがわかります。
乾電池が消耗すると、ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの動作が不安定になります。
お早めに新しい乾電池と交換してください。



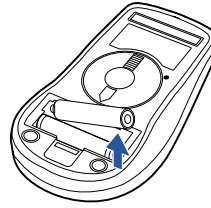
乾電池の交換方法

- 1 ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウスを裏返して電池ボックスを開け、乾電池を取り出します。

■ ワイヤレスキーボード

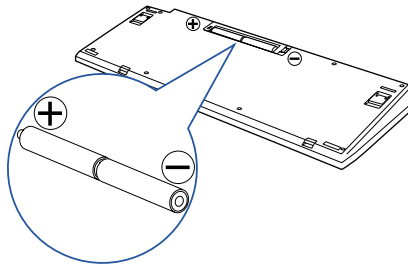


■ ワイヤレスマウス

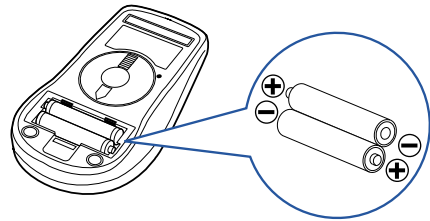


- 2 新しい乾電池を入れます。

■ ワイヤレスキーボード

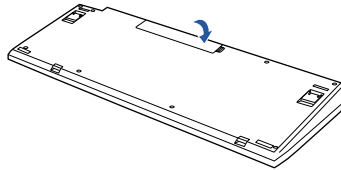


■ ワイヤレスマウス



- 3 電池ボックスを閉めます。

■ ワイヤレスキーボード



■ ワイヤレスマウス



POINT

乾電池の使用推奨期限を確認してください

乾電池が使用推奨期限を過ぎていないか、確認してお使いください。

重要

乾電池の交換などで乾電池を抜くと、通信周波数はチャンネル A、ID 設定値は「ID0 (ゼロ)」になります

もう一度通信周波数、ID 設定値を変更してください (●▶P.80)。

通信周波数 / ID 設定値について

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスが使えなくなったとき、または混信するときには、次の手順に従って通信周波数（チャンネル） / ID 設定値を変更してください。

重要

設定をする前に確認してください

- ・「使用上のお願い」（▶P.17）をご覧ください、パソコンを設置している環境を確認してください。
- ・ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスはパソコン本体から 1m 以内のできるだけ近くで操作してください。
- ・パソコン本体の電源を入れた状態で設定してください。電源が入っていないときや、省電力機能が働いているときは設定することはできません。

通信周波数（チャンネル） / ID 設定値を合わせてください

ワイヤレスキーボード / ワイヤレスマウスは、キーボード / マウスアンテナ（パソコン本体に内蔵）と通信するために、それぞれ 2 つの通信周波数（チャンネル）を備えており、さらにそれぞれの通信周波数（チャンネル）に対して 16 個の ID を備えています。

ワイヤレスキーボード

チャンネル A: ID0 ~ ID15

チャンネル B: ID0 ~ ID15

ワイヤレスマウス

チャンネル A: ID0 ~ ID15

チャンネル B: ID0 ~ ID15

通信周波数（チャンネル） / ID 設定値はパソコン本体、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスがそれぞれに記憶しています。パソコン本体とワイヤレスキーボード、パソコン本体とワイヤレスマウスの ID 設定値がそれぞれ一致しないと、正しく動作しません。

通信周波数（チャンネル）と ID の設定について

通信周波数（チャンネル） / ID 設定値の変更は、ID 設定モードになっている間に、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスのチャンネルスイッチを押すことにより行います。

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスは同じ通信周波数（チャンネル）に設定してください

ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）は同じ設定にしてください。同じ設定になっていないと、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスを同時に使用できません（ID は異なっているため動作しません）。

乾電池の交換などで乾電池を抜くと、通信周波数は「チャンネル A」、ID 設定値は「ID0（ゼロ）」になります

もう一度、通信周波数、ID 設定値を変更してください。（▶P.80）

ID 設定をしても正常に動作しない場合

ID 設定値を変更しても正常に動作しない場合は、ワイヤレスキーボードとワイヤレスマウスを対応するパソコン本体の 1m 以内に近づけて使用してください。また、このパソコンを複数台でお使いの場合は、パソコン本体間を 2m 以上離してください。

複数のワイヤレスキーボード / ワイヤレスマウスの同時使用について

ワイヤレスキーボード / ワイヤレスマウスが標準添付となっているパソコンを複数台で同時に使用する場合は、パソコン同士の混信を避けるために、隣接するパソコンごとに通信周波数（チャンネル）を変えてお使いください。

それでも影響がある場合は、目安としてパソコン同士を 2m 以上離して設置してください。

**重要**

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、パソコン本体の通信周波数（チャンネル）／ID設定値を合わせてください

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）／ID 設定値がリセットされても、パソコン本体の通信周波数（チャンネル）／ID 設定値はリセットされません。ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル）／ID 設定値を設定するときは、パソコン本体と同じ通信周波数（チャンネル）／ID 設定値に設定してください。以前に設定したパソコン本体の通信周波数（チャンネル）／ID 設定値がわからない場合は、パソコン本体、ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスすべてをリセットして初期値（チャンネル A / ID0（ゼロ））にしてください。

通信周波数（チャンネル）／ID 設定中は、他のパソコンを操作しないでください

通信周波数（チャンネル）／ID 設定値を設定するときは、1 台ずつ行ってください。違う通信周波数（チャンネル）／ID に設定され、混信するおそれがあります。

■ 1 台だけでお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンが近くにない場合は、混信の心配がないため、初期値（チャンネル A / ID0（ゼロ））のままお使いいただけます。通信周波数／ID を設定する必要はありません。ただし、何らかの原因で使えなくなった場合のみ、「1 通信周波数／ID をリセットする」（▶▶P.82）をご覧ください。設定情報をリセットして初期値（チャンネル A / ID0（ゼロ））に戻してください。

■ 近接して 2 台でお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンを近くで 2 台使う場合は、次の手順に従って 2 台のうち 1 台のチャンネルを B に変更してください。もう 1 台は、初期値（チャンネル A）でお使いください。

1 「1 通信周波数／ID をリセットする」（▶▶P.82）

通信周波数／ID をリセットします。

2 「2 新しい通信周波数（チャンネル）／ID を設定する」（▶▶P.84）

2 台のうち 1 台の通信周波数をチャンネル B に変更します。

■ 近接して 3 台以上でお使いになる場合

ワイヤレスキーボードおよびワイヤレスマウスを使用しているパソコンを近くで 3 台以上使う場合は、次の手順に従って各パソコンの通信周波数／ID 設定値が異なるように設定してください。

1 「1 通信周波数／ID をリセットする」（▶▶P.82）

通信周波数／ID をリセットします。

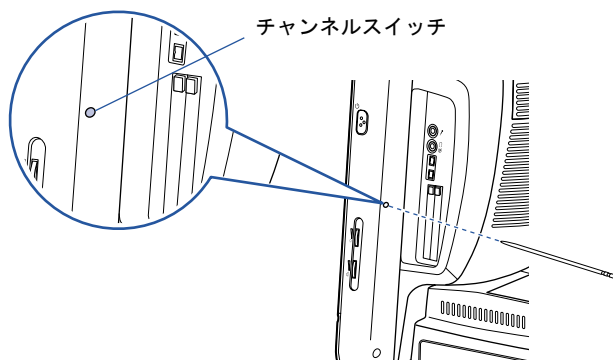
2 「2 新しい通信周波数（チャンネル）／ID を設定する」（▶▶P.84）

各パソコンの通信周波数／ID 設定値を変更します。

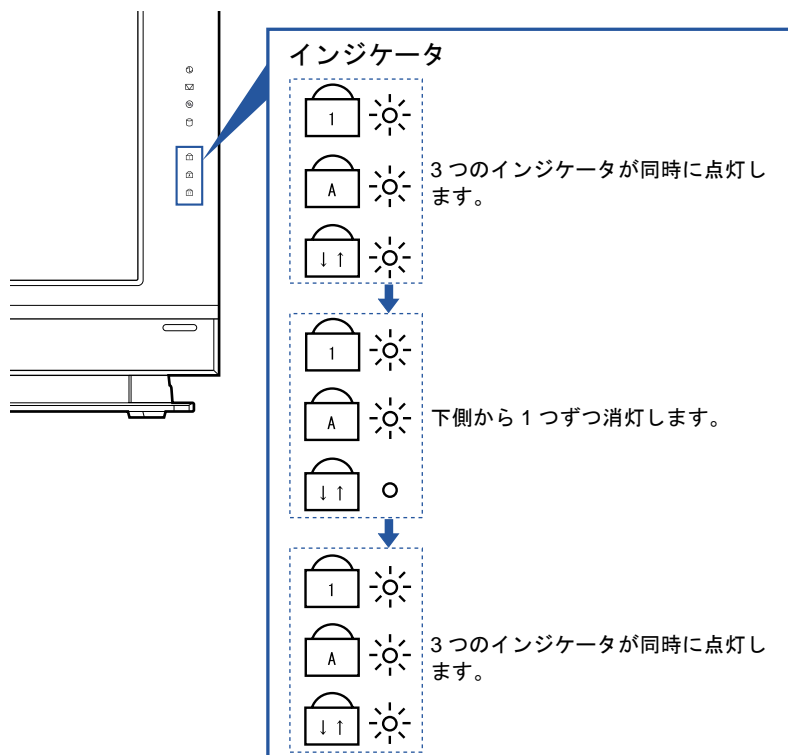
1 通信周波数／ID をリセットする

- 1 インジケータ（下図参照）の状態を紙に書き留めておいてください。
リセット完了時に、インジケータの状態を確認する必要があります。
- 2 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを3つのインジケータが同時に点灯するまで押し続けます（約5秒間）。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
パソコン本体に記憶されているワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス両方の通信周波数／ID 設定値がリセットされ、初期値（チャンネルA / ID0（ゼロ））になります。



パソコン本体前面の3つのインジケータが次のように点滅します。



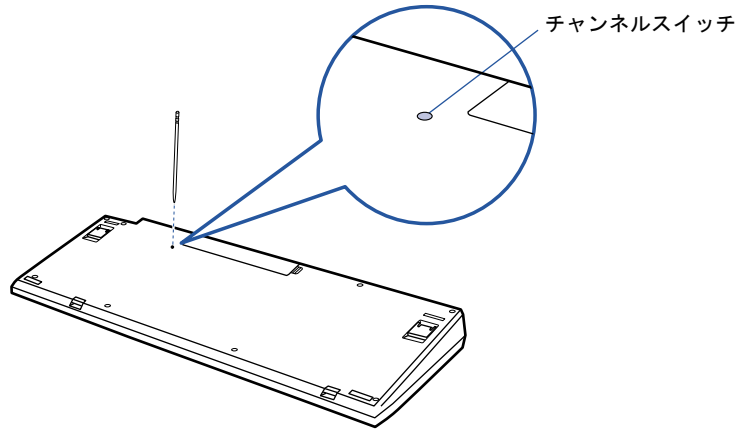
3つのインジケータが同時に点灯したら、電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）をチャンネルスイッチから離してください。

その後、インジケータが2回点滅し、手順1（▶P.82）で確認した状態に戻れば、正しくリセットされたことになります。

うまくいかなかったときは、もう一度この操作を行ってください。

3 ワイヤレスキーボード裏面のチャンネルスイッチを10秒以上押し続けます。

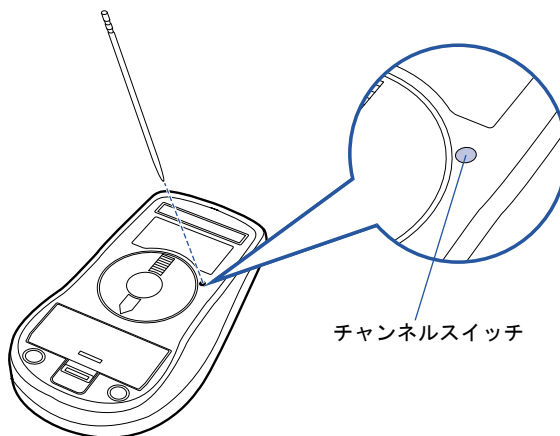
電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。



ワイヤレスキーボードに記憶されているキーボードの通信周波数／ID設定値がリセットされ、初期値（チャンネルA／ID0（ゼロ））になります。

4 ワイヤレスマウス裏面のチャンネルスイッチを10秒以上押し続けます。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。



ワイヤレスマウスに記憶されているマウスの通信周波数／ID設定値がリセットされ、初期値（チャンネルA／ID0（ゼロ））になります。


2 新しい通信周波数（チャンネル） / ID を設定する

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル） / ID はパソコン本体が ID 設定モードになっている 20 秒間に記憶されます。ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスのチャンネルスイッチを 1 回押すと ID1 が設定され、2 回押すと ID2 が、というようにスイッチを押した回数により ID 設定値が変わり、ID15 まで選択できます。ID15 の次は ID0（ゼロ）に戻ります。初期状態では ID0（ゼロ）が設定されています。

また、通信周波数（チャンネル）をチャンネル A にするか B にするかにより、操作方法が異なります。

ワイヤレスキーボード

チャンネル A : チャンネルスイッチを押すことにより、ID1, ID2・・・と変更

チャンネル B : ワイヤレスキーボードの  (スペースキー) を押しながらチャンネルスイッチを押すことにより、ID1, ID2・・・と変更

ワイヤレスマウス

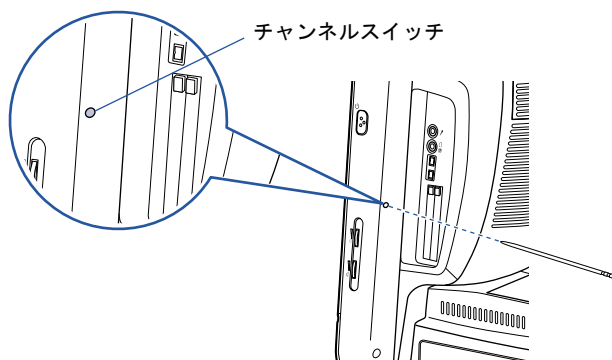
チャンネル A : チャンネルスイッチを押すことにより、ID1, ID2・・・と変更

チャンネル B : ワイヤレスマウスの右ボタンを押しながらチャンネルスイッチを押すことにより、ID1, ID2・・・と変更

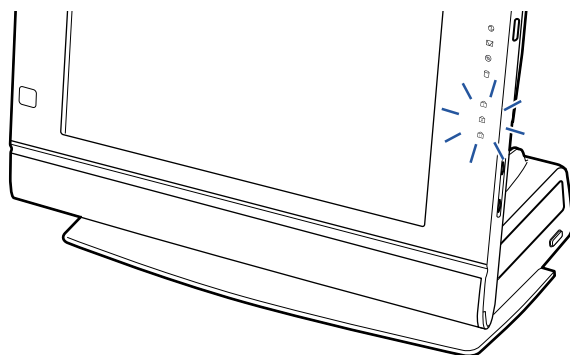
■ ワイヤレスキーボードの通信周波数（チャンネル） / ID を設定する

1 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを 1 回押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。このとき 4 秒以上ボタンを押し続けしないでください。



ID 設定モードになり、パソコン本体の 3 つのインジケータが約 20 秒間、上から順番に点滅を開始します。



2 ワイヤレスキーボードを裏返しにし、電池ボックス側をパソコン本体に向けて手に持ちます。

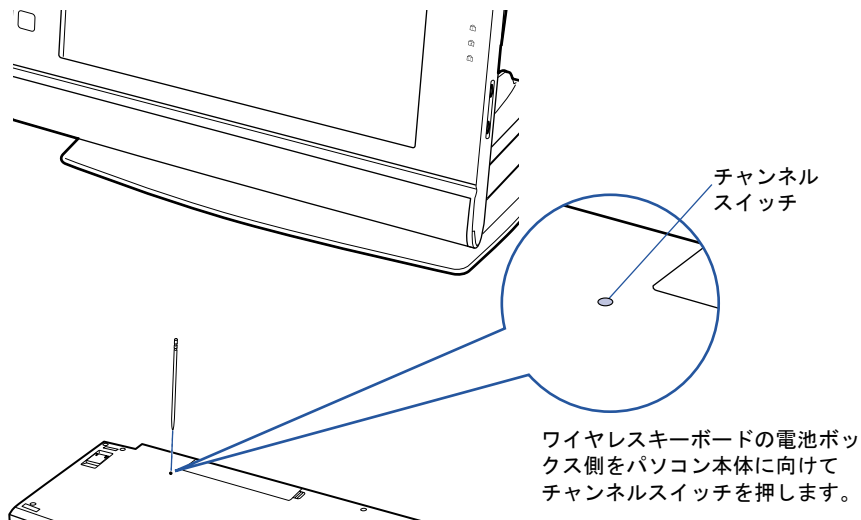
このとき、ワイヤレスキーボードのキーを押さないように持ってください。

チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスキーボードの  の位置を確認しておきます。

3 インジケータが上から順番に点滅している間に、ワイヤレスキーボードの裏面のチャンネルスイッチを設定したい回数押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。


このとき 4 秒以上ボタンを押し続けしないでください。



(例)


初期値 (ID0 (ゼロ)) の状態から ID5 に設定する場合→チャンネルスイッチを 5 回押します。


ID3 の状態から ID10 に設定する場合→チャンネルスイッチを 7 回押します。


チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスキーボードの  を押しながら、チャンネルスイッチを設定したい回数押します。

なお、チャンネルを変更しても、ID の値は引き継がれます。

(例)

チャンネル A / ID3 の状態から、 を押しながらチャンネルスイッチを 7 回押す
→チャンネル B / ID10 に設定されます。

チャンネル B / ID13 の状態から、 を押さずにチャンネルスイッチを 4 回押す
→チャンネル A / ID1 に設定されます。

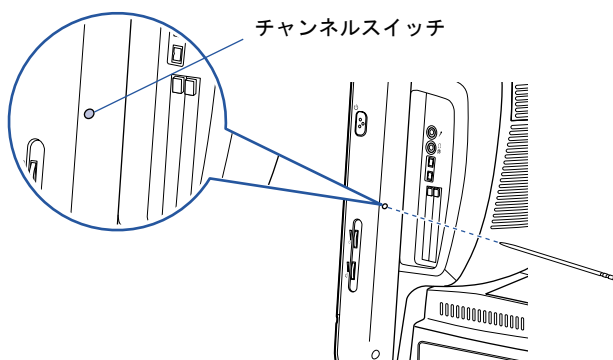
正しく受信したときは、約 1 秒後に 3 つのインジケータが同時に点滅し、通信周波数 (チャンネル) / ID が記憶されます。チャンネル B に設定した場合は、このインジケータの点滅が終わるまで  を押し続けてください。

設定後もワイヤレスキーボードが正しく動作しないときは、正しく設定できていない可能性があります。「1 通信周波数 / ID をリセットする」(●▶P.82) からもう一度設定を行ってください。

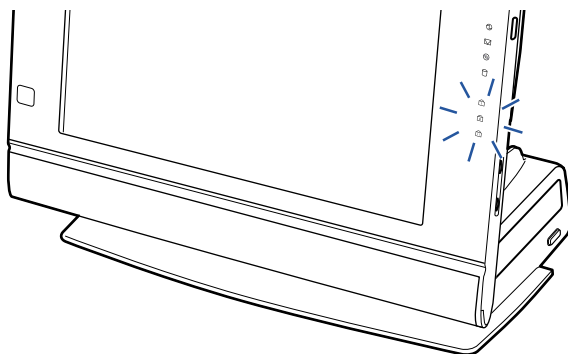
■ ワイヤレスマウスの通信周波数（チャンネル） / ID を設定する

1 パソコン本体背面のチャンネルスイッチを 1 回押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。
このとき 4 秒以上ボタンを押し続けしないでください。



ID 設定モードになり、パソコン本体の 3 つのインジケータが約 20 秒間、上から順番に点滅を開始します。



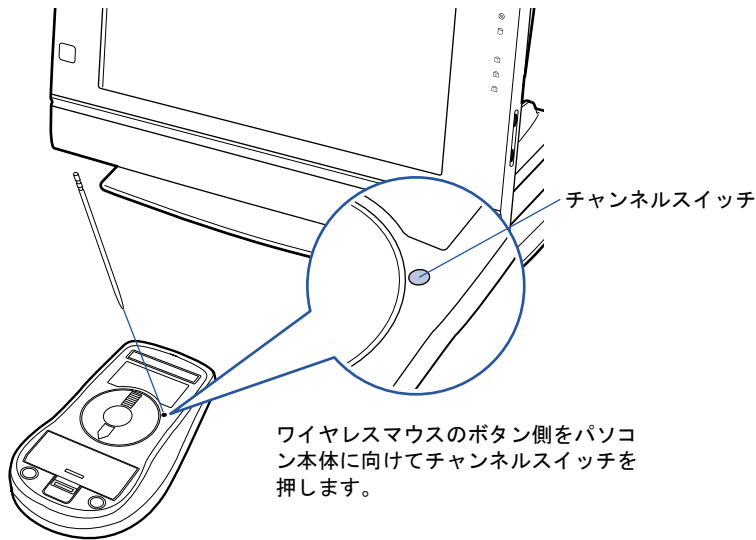
2 ワイヤレスマウスを裏返しにし、ボタン側をパソコン本体に向けて手に持ちます。

このとき、ワイヤレスマウスのボタンなどを押さないように持ってください。

チャンネル B に設定する場合は、ワイヤレスマウスの右ボタンの位置を確認しておきます。

3 インジケータが上から順番に点滅している間に、ワイヤレスマウス裏面のチャンネルスイッチを設定したい回数押します。

電気を通さない細い棒状のもの（つま楊枝など）を、まっすぐに差し込んでください。このとき4秒以上ボタンを押し続けしないでください。



(例)

初期値(ID0(ゼロ))の状態からID5に設定する場合→チャンネルスイッチを5回押します。

ID3の状態からID10に設定する場合→チャンネルスイッチを7回押します。

チャンネルBに設定する場合は、ワイヤレスマウスの右ボタンを押しながら、チャンネルスイッチを設定したい回数押します。

なお、チャンネルを変更しても、IDの値は引き継がれます。

(例)

チャンネルA / ID3の状態から、右ボタンを押しながらチャンネルスイッチを7回押す
→チャンネルB / ID10に設定されます。

チャンネルB / ID13の状態から、右ボタンを押さずにチャンネルスイッチを4回押す
→チャンネルA / ID1に設定されます。

正しく受信したときは、約1秒後に3つのインジケータが同時に点滅し、通信周波数(チャンネル) / IDが記憶されます。チャンネルBに設定した場合は、このインジケータの点滅が終わるまで右ボタンを押し続けてください。

設定後もワイヤレスマウスが正しく動作しないときは、正しく設定できていない可能性があります。「1 通信周波数 / IDをリセットする」(▶P.82)からもう一度設定を行ってください。

4 テレビを見る準備をする

ここでは、リモコンの準備や、アンテナを接続する方法を紹介します。

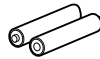
必要なものを用意する

次のものを用意してください

■ リモコン



■ 単3 マンガン乾電池×2



重要

アンテナケーブル類は添付していません

アンテナケーブル、変換コネクタ、V/U ミキサ、中継コネクタなどは添付していません。市販のものをご購入ください。また、ケーブルは適切な長さのものをご購入ください。アンテナ設置については、最寄りの電器店にお問い合わせください。

アンテナを接続するときはパソコンの電源を切ってください

パソコンの電源を切ってから、アンテナケーブルを接続してください。

乾電池を入れる



警告



- ・乾電池を入れる場合、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池をお使いになる際は、「乾電池の注意事項（●▶P.101）」も必ずご覧ください。

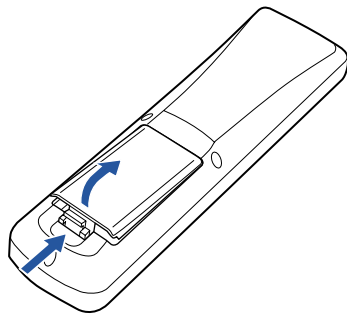


重要

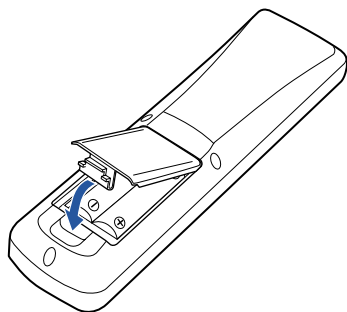
ご購入時に添付されている乾電池はお早めに交換してください

ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。

- 1 リモコンを裏返して電池のふたを開け、添付のマンガン乾電池を入れます。



- 2 電池のふたを閉めます。

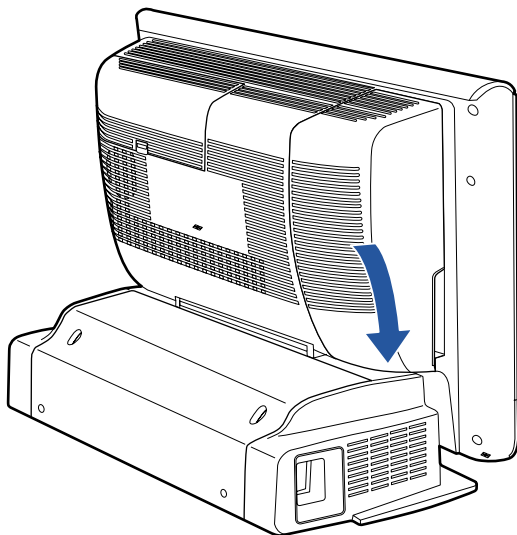


接続する



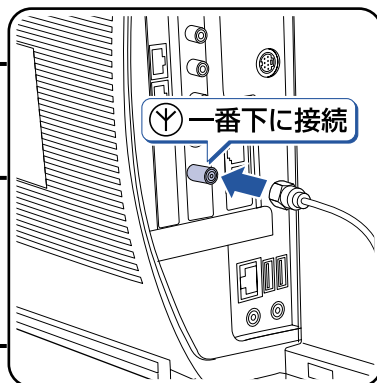
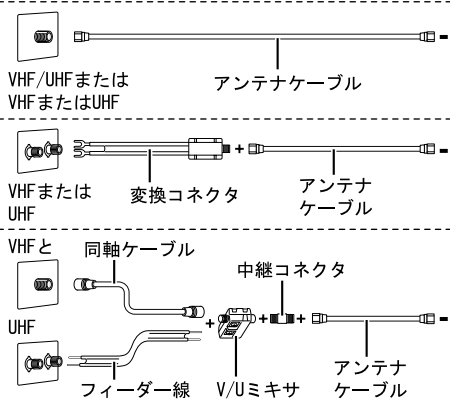
・近くで落雷のおそれがある場合は、すべての接続作業を中止してください。
落雷による感電のおそれがあります。

- 1 パソコンの電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2 パソコン本体左側面のカバーを取り外します。

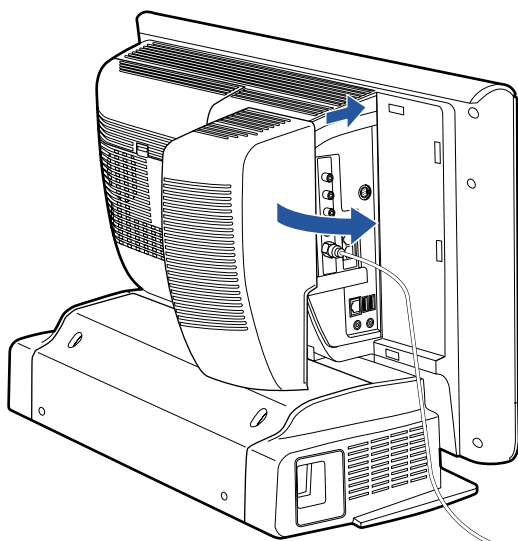


- 3 アンテナケーブルをパソコン本体に接続します。
接続のしかたは、壁のアンテナコネクタの形や、お使いになるケーブルによって異なります。下の図から最も近いものを選択し、必要なケーブル類を接続してください。

アンテナコネクタの形 使用するケーブルなど



- 4 手順2で外したカバーを取り付け、アンテナケーブルを外に出します。
カバーを取り付ける際、ケーブルをはさまないようにしてください。

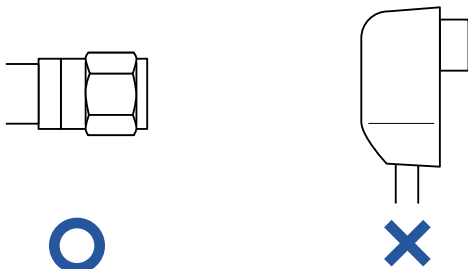


5

重要



ネジ式の F 型コネクタプラグをお使いください

アンテナケーブルとパソコンの接続には、ノイズの影響を受けにくいネジ式の F 型コネクタプラグをお使いください。F 型コネクタプラグの取り付け方については、F 型コネクタプラグのマニュアルをご覧ください。電器店にお問い合わせください。

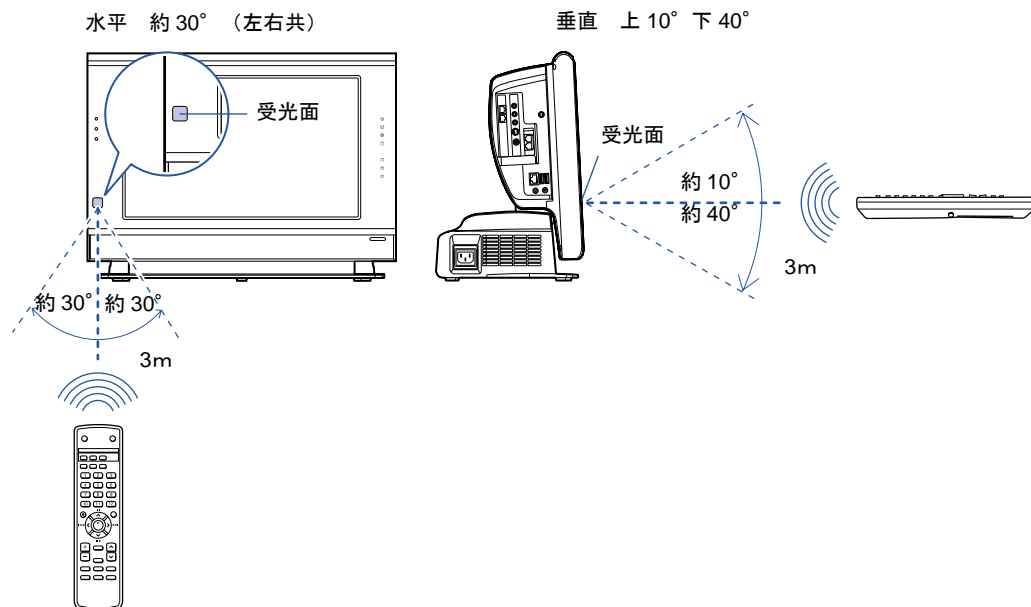


リモコンをお使いになる場合の注意


リモコンをお使いになる場合は、以下の点にご注意ください。

- ・リモコンをお使いになる場合には、リモコンマネージャーが起動している必要があります。画面右下の通知領域に  (リモコンマネージャー) が表示されているか、確認してください。リモコンマネージャーについては、 (サービスアシスタント) の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「アプリケーション一覧」→「リモコンマネージャー」をご覧ください。
- ・信号が受けやすいように、リモコンをパソコン本体の受光面に向けてください。
- ・パソコン本体の受光面とリモコンの間に障害物がない場所に設置してください。
- ・直射日光などの強い光があたる場所での使用は避けてください。使用距離が短くなる場合があります。

パソコン本体のリモコン受光面使用可能範囲




テレビを見る

テレビを見るための機能（チャンネル設定）や、テレビの見かたなどについては、（サービスアシスタント）の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「TV」をご覧ください。

テレビを見るとき注意

テレビを見るときには、次の点にご注意ください。

- ・ ご使用中は画面のプロパティの設定を変更しないでください。
- ・ メディアプレーヤーなど、他のアプリケーションと同時に使用しないでください。

ビデオデッキとの接続については、（サービスアシスタント）の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「周辺機器を取り付ける」→「ビデオデッキ／ビデオカメラ／CS チューナーを接続する」をご覧ください。

6

第6章 付 録

1 仕様一覧	94
2 その他の注意事項	101
3 リサイクルについて	102


1 仕様一覧

パソコン本体

製品名称		FMV-DESKPOWER L20C/F	FMV-DESKPOWER L20C/R	FMV-DESKPOWER L20C/S	FMV-DESKPOWER L20C
CPU		Intel® Pentium® 4 プロセッサ 2AGHz		Intel® Celeron® プロセッサ 2GHz	
キャッシュメモリ		1次 8KB+2次 512KB (CPU内蔵)		1次 8KB+2次 128KB (CPU内蔵)	
チップセット		SiS 社製 SiS650 チップセット			
システム・バス		400MHz			
メインメモリ		標準 256MB (PC2100 DDR SDRAM DIMM) ECC なし 最大 1GB			
メモリスロット		× 2 (空きスロット× 1)			
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵			
	ビデオメモリ	32MB (メインメモリと共用)			
	ディスプレイ	17型ワイドデジタル液晶			
	解像度/発色数	最大 1280 × 768 ドット/最大 1619 万色			
フロッピーディスクドライブ (※1)		FDD ユニット (USB) (別売)			
ハードディスクドライブ (※2)		120GB (Ultra ATA/100)			
CD/DVD ドライブ		DVD Multi ドライブ CD-ROM/CD-R 読出: 最大 32 倍速、CD-RW 読出: 最大 24 倍速、DVD-RAM 読出: 最大 2 倍速 (4.7/9.4GB)、最大 1 倍速 (2.6/5.2GB)、DVD-ROM 読出: 最大 10 倍速、DVD-R 読出: 最大 6 倍速、DVD-RW 読出: 最大 6 倍速、CD-R 書込: 最大 12 倍速、CD-RW 書込書換: 最大 8 倍速、DVD-RAM 書込: 最大 2 倍速 (4.7/9.4GB)、DVD-R 書込: 最大 2 倍速、DVD-RW 書込書換: 最大 1 倍速	DVD-R/RW ドライブ CD-ROM/CD-R 読出: 最大 40 倍速、CD-RW 読出: 最大 20 倍速、DVD-ROM 読出: 最大 12 倍速、DVD-R 読出: 最大 4.8 倍速、DVD-RW 読出: 最大 4.8 倍速、CD-R 書込: 最大 16 倍速、CD-RW 書込書換: 最大 10 倍速、DVD-R 書込: 最大 1 倍速、DVD-RW 書込書換: 最大 1 倍速	CD-RW/DVD-ROM ドライブ CD-ROM/CD-R 読出: 最大 40 倍速、CD-RW 読出: 最大 20 倍速、DVD-ROM 読出: 最大 4.8 倍速、CD-R 書込: 最大 16 倍速、CD-RW 書込書換: 最大 10 倍速	
オーディオ機能	サウンドコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック			
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz 16bit ステレオ 同時録音再生機能			
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート			

製品名称	FMV-DESKPOWER L20C/F	FMV-DESKPOWER L20C/R	FMV-DESKPOWER L20C/S	FMV-DESKPOWER L20C
モデム	データ：最大 56kbps (V.90 準拠) / FAX：最大 14.4kbps Wakeup On Ring 機能対応			
LAN	100BASE-TX/10BASE-T 準拠			
ワイヤレス LAN	-		IEEE802.11b 準拠 (Wi-Fi 準拠)	-
通信機能 ホームサーバー機能	ホームサーバー機能カード WAN 側：100BASE-TX/10BASE-T 準拠 LAN 側：100BASE-TX/10BASE-T 準拠 ワイヤレス LAN アクセスポイント：IEEE802.11b (Wi-Fi 準拠) × 1 ワイヤレス LAN アンテナ：ダイバーシティアンテナ (内蔵) 2.5" HDD 内蔵, ファミリーネットワークウェアプレインストール		-	
PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 2 スロット または Type III × 1 スロット (CardBus 対応)			
USB	USB2.0/1.1 準拠 シリーズ A × 4 (左側面 × 2、右側面 × 2)			
IEEE1394	4 ピン × 2 (S400)			
モデム	RJ-11 × 2 (LINE × 1、PHONE × 1)			
インターネット ポート	LAN	RJ45 × 2 (WAN × 1、LAN × 1)	RJ-45 × 1	
テレビ	ビデオ出力		S 映像出力端子	
サウンド	アンテナ入力 (F 型同軸) × 1 ビデオ入力 (S ビデオ) × 1 ビデオ入力 (コンボジット) × 1 ビデオ音声入力 (右) × 1 ビデオ音声入力 (左) × 1		アンテナ入力 (F 型同軸) × 1 ビデオ入力 (S ビデオ) × 1 ビデオ入力 (コンボジット) × 1	
電源/周波数	マイク：φ3.5mm モノラル・ミニジャック、ヘッドホン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック / 光デジタルオーディオ出力：丸形：光ミニジャック、スピーカーアウト：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック、ラインイン：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック			
電源切断時 (※3)	12W 以下		7W 以下	
消費電力 動作時	通常約 127W 最大 210W スタンバイ時約 13W (※4)	通常約 105W 最大 210W スタンバイ時約 7.5W	通常約 108W 最大 210W スタンバイ時約 7.5W	通常約 104W 最大 210W スタンバイ時約 7.5W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	Q 区分 0.0026	Q 区分 0.0015		
外形寸法	W492 × D234.4 × H363.5mm (突起含まず)			
質量	約 14.5 kg		約 14.0 kg	
盗難防止用ロック	あり			
使用環境	温度 10 ~ 35 °C 湿度 20 ~ 80% (RH)			
プレインストール OS	Windows XP SP1 Home Edition (DirectX:8.1 対応)	Windows XP SP1 Professional (DirectX:8.1 対応)		Windows XP SP1 Home Edition (DirectX:8.1 対応)
サポート OS	Windows XP SP1 Home Edition、Windows XP SP1 Professional (※5)			

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- ※1
 - ・このパソコンには、フロッピーディスクドライブは内蔵されていません。オプション品の FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) を、お買い求めの上、お使いください。
なお、FDD ユニットの接続と取り外しは、必ず電源を切った状態で行ってください。
 - ・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) を接続すると、デスクトップの  (マイコンピュータ) 内にドライブが表示され、フロッピーディスクドライブとして使うことができます。
 - ・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) では、次のフロッピーディスクは使用できません。
 - ・ OASYS 文書フロッピー
 - ・ 640KB でフォーマットしたフロッピーディスク
 - ・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) では、次のフロッピーディスクは、データの読み書きはできますが、フォーマットはできません。
 - ・ 1.25MB でフォーマットしたフロッピーディスク
 - ・ 1.23MB でフォーマットしたフロッピーディスク
 - ・ 720KB でフォーマットしたフロッピーディスク
- ※2 このマニュアルに記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。Windows 上で 1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で表示される容量は、このマニュアルに記載のディスク容量より少なくなります。
- ※3 電源切断時の電力消費を回避するには、パソコンの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ※4 ホームサーバー機能停止時。
- ※5 他の OS をお使いになるときは、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET (<http://www.fmworld.net/>) をご覧ください。

製品名称	FMV-DESKPOWER L20CN		FMV-DESKPOWER L20C/CN
モデル名	ホームサーバー機能 内蔵モデル	—	Smart Display セットモデル
CPU	Intel® Pentium® 4 プロセッサ 2AGHz		Intel® Celeron® プロセッサ 2GHz
キャッシュメモリ	1次 8KB+2次 512KB (CPU内蔵)		1次 8KB+2次 128KB (CPU内蔵)
チップセット	SiS 社製 SiS650 チップセット		
システム・バス	400MHz		
メインメモリ★	標準 256MB/512MB (PC2100 DDR SDRAM DIMM) ECC なし 最大 1GB		
メモリスロット	× 2 (空きスロット × 1)		
表示機能	グラフィック アクセラレータ	チップセットに内蔵	
	ビデオメモリ	32MB (メインメモリと共用)	
	ディスプレイ	17型ワイドデジタル液晶	
	解像度/発色数	最大 1280 × 768 ドット/最大 1619 万色	
フロッピーディスク ドライブ (※1)	FDD ユニット (USB) (別売)		
ハードディスク ドライブ (※2) ★	120GB/160GB (Ultra ATA/100)		
C D / D V D ド ラ イ ブ	DVD Multi ドライブ ★	CD-ROM/CD-R 読出: 最大 32 倍速、CD-RW 読出: 最大 24 倍速、DVD-RAM 読出: 最大 2 倍速 (4.7/9.4GB)、最大 1 倍速 (2.6/5.2GB)、DVD-ROM 読出: 最大 10 倍速、DVD-R 読出: 最大 6 倍速、DVD-RW 読出: 最大 6 倍速、CD-R 書込: 最大 12 倍速、CD-RW 書込書換: 最大 8 倍速、DVD-RAM 書込: 最大 2 倍速 (4.7/9.4GB)、DVD-R 書込: 最大 2 倍速、DVD-RW 書込書換: 最大 1 倍速	—
	DVD-R/RW ドライブ ★	—	CD-ROM/CD-R 読出: 最大 40 倍速、CD-RW 読出: 最大 20 倍速、DVD-ROM 読出: 最大 12 倍速、DVD-R 読出: 最大 4.8 倍速、DVD-RW 読出: 最大 4.8 倍速、CD-R 書込: 最大 16 倍速、CD-RW 書込書換: 最大 10 倍速、DVD-R 書込: 最大 1 倍速、DVD-RW 書込書換: 最大 1 倍速
	CD-RW/DVD-ROM ドライブ ★	—	CD-ROM/CD-R 読出: 最大 40 倍速、CD-RW 読出: 最大 20 倍速、DVD-ROM 読出: 最大 12 倍速、DVD-R 読出: 最大 4.8 倍速、CD-R 書込: 最大 16 倍速、CD-RW 書込書換: 最大 10 倍速
オ ー デ イ オ 機 能	サウンドコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック	
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz 16bit ステレオ 同時録音再生機能	
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート	
通 信 機 能	モデム	データ: 最大 56kbps (V.90 準拠) / FAX: 最大 14.4kbps Wakeup On Ring 機能対応	
	LAN	—	100BASE-TX/10BASE-T 準拠
	ワイヤレス LAN ★	—	なし / IEEE802.11b 準拠 (Wi-Fi 準拠)
	ホームサーバー機能 ★	ホームサーバー機能 カード WAN 側: 100BASE-TX/ 10BASE-T 準拠 LAN 側: 100BASE-TX/ 10BASE-T 準拠 ワイヤレス LAN アクセ ス ポ イ ン ト: IEEE802.11b (Wi-Fi 準拠) × 1 ワイヤレス LAN アンテ ナ: ダイバーシティアン テナ (内蔵) 2.5" HDD 内蔵, ファミ リーネットワークウエ アプレインストール	—

製品名称	FMV-DESKPOWER L20CN		FMV-DESKPOWER L20C/CN	
モデル名	ホームサーバー機能 内蔵モデル	-		Smart Display セットモデル
イン ター フ ェ ー ス	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I / II × 2 スロット または Type III × 1 スロット (CardBus 対応)		
	USB	USB2.0/1.1 準拠 シリーズ A × 4 (左側面 × 2、右側面 × 2)		
	IEEE1394	4 ピン × 2 (S400)		
	モデム	RJ-11 × 2 (LINE × 1、PHONE × 1)		
	LAN	RJ45 × 2 (WAN × 1、LAN × 1)	RJ-45 × 1	
	ビデオ出力	S 映像出力端子		
	テレビ★	ハードエンコーダ付き TV チューナーカード (アンテナ入力 (F 型同軸) × 1、ビデオ入力 (S ビデオ) × 1、ビデオ入力 (コンボジット) × 1、ビデオ音声入力 (右) × 1、ビデオ音声入力 (左) × 1)	ハードエンコーダ付き TV チューナーカード (アンテナ入力 (F 型同軸) × 1、ビデオ入力 (S ビデオ) × 1、ビデオ入力 (コンボジット) × 1、ビデオ音声入力 (右) × 1、ビデオ音声入力 (左) × 1) / TV チューナーカード (アンテナ入力 (F 型同軸) × 1、ビデオ入力 (S ビデオ) × 1、ビデオ入力 (コンボジット) × 1)	TV チューナーカード (アンテナ入力 (F 型同軸) × 1、ビデオ入力 (S ビデオ) × 1、ビデオ入力 (コンボジット) × 1)
サウンド	マイク: φ3.5mm モノラル・ミニジャック、ヘッドホン: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック / 光デジタルオーディオ出力: 丸形: 光ミニジャック、スピーカーアウト: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック、ラインイン: φ3.5mm ステレオ・ミニジャック			
電源/周波数	AC100V 50/60Hz			
消費 電力	電源切断時 (※3)	12W 以下		7W 以下
	動作時	通常約 127W 最大 210W スタンバイ時約 13W (※4)	通常約 105W 最大 210W スタンバイ時約 7.5W	通常約 104W 最大 210W スタンバイ時約 7.5W
省エネ法に基づく エネルギー消費効率	Q 区分 0.0026		Q 区分 0.0015	
外形寸法	W492 × D234.4 × H363.5mm (突起含まず)			
質量	約 14.5 kg		約 14.0 kg	
盗難防止用ロック	あり			
使用環境	温度 10 ~ 35 °C 湿度 20 ~ 80% (RH)			
プレインストール OS ★	Windows XP SP1 Home Edition (DirectX:8.1 対応)	Windows XP SP1 Home Edition (DirectX:8.1 対応) / Windows XP SP1 Professional (DirectX:8.1 対応)		Windows XP SP1 Professional (DirectX:8.1 対応)
サポート OS	Windows XP SP1 Home Edition、Windows XP SP1 Professional (※5)			


★ ご購入時に選択したものをご覧ください。

パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- ※1 ・このパソコンには、フロッピーディスクドライブは内蔵されていません。オプション品の FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) を、お買い求めの上、お使いください。
 なお、FDD ユニットの接続と取り外しは、必ず電源を切った状態で行ってください。
 ・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) を接続すると、デスクトップの (マイコンピュータ) 内にドライブが表示され、フロッピーディスクドライブとして使うことができます。
 ・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) では、次のフロッピーディスクは使用できません。
 ・OASYS 文書フロッピー
 ・640KB でフォーマットしたフロッピーディスク
 ・FDD ユニット (USB) (FMFD-51S) では、次のフロッピーディスクは、データの読み書きはできますが、フォーマットはできません。
 ・1.25MB でフォーマットしたフロッピーディスク
 ・1.23MB でフォーマットしたフロッピーディスク
 ・720KB でフォーマットしたフロッピーディスク
- ※2 このマニュアルに記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。Windows 上で 1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で表示される容量は、このマニュアルに記載のディスク容量より少なくなります。
- ※3 電源切断時の電力消費を回避するには、パソコンの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ※4 ホームサーバー機能停止時。
- ※5 他の OS をお使いになるときは、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET (<http://www.fmworld.net/>) をご覧ください。

液晶ディスプレイ

表示方式	TFT
サイズ	17型ワイド
最大解像度	1280 × 768 ドット
最大発色数	1619 万色

- ※ ・パソコンが省電力状態になる際、ディスプレイに「節電に入ります」と表示されることがあります。
 ・ディスプレイに「サポート外のモードです」と表示され、画面が乱れることがあります。このパソコンで表示できる解像度に設定しなおしてください。
 設定方法については、 (サービスアシスタント) の最初の画面→「画面で見るマニュアル」→「パソコンの使い方」→「パソコンの設定」→「画面の解像度や発色数を変更する」をご覧ください。

内蔵スピーカー

方式	トランソニックスピーカー
スピーカーユニット	口径：30 (mm) インピーダンス 3.5 Ω
定格 (最大) 入力	2W/ch
音圧レベル	78dB/W (m)
再生周波数	175Hz ~ 20kHz

LAN 機能

LAN コントローラ	Realtek RTL8100BL
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 2Kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル (※1) (100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット (※2) による

- ※1 ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア (UTP) カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。
 ※2 ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

ネットワークのスピードについて

LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

ハードエンコーダ付き TV チューナーカード

割り込み (IRQ)	PCI システムによる自動設定
メモリマッピング	PCI システムによる自動設定
NTSC 入力仕様	NTSC コンポジット : 1V p-p 75Ω S ビデオ : 1V p-p 75Ω
コネクタ	ビデオ音声入力端子 (右) ・RCA ピンジャック×1 ビデオ音声入力端子 (左) ・RCA ピンジャック×1 ビデオ入力 (コンポジット) 端子・RCA ピンジャック×1 ビデオ入力 (S ビデオ) 端子・ミニ DIN4 ピンジャック×1 アンテナ入力 (F 型同軸) 端子・F 型コネクタ×1
TV 音声仕様	ステレオ、音声多重出力
RF 入力端子	75Ω F 型コネクタ

TV チューナーカード

割り込み (IRQ)	PCI システムによる自動設定
メモリマッピング	PCI システムによる自動設定
NTSC 入力仕様	NTSC コンポジット : 1V p-p 75Ω S ビデオ : 1V p-p 75Ω
コネクタ	ビデオ入力 (コンポジット) 端子・RCA ピンジャック×1 ビデオ入力 (S ビデオ) 端子・ミニ DIN4 ピンジャック×1 アンテナ入力 (F 型同軸) 端子・F 型コネクタ×1
TV 音声仕様	ステレオ、音声多重出力
RF 入力端子	75Ω F 型コネクタ

リモコン

通信方式	赤外線方式	
使用可能距離	3m	
乾電池の寿命の目安	約 6ヶ月 (マンガン乾電池使用時)	
使用可能範囲	水平	約 30°
	垂直	上 : 約 10° / 下 : 約 40°
使用電池	単 3 形乾電池 2 本	

2 その他の注意事項

乾電池の注意事項

このパソコンに添付されているワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウスおよび、リモコンの乾電池の注意事項について説明します。



指示

- 電池のアルカリ液が目に入ったときは、失明など障害のおそれがありますので、こすらずに水道水などの多量のきれいな水で充分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。



発火

- 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。
- 乾電池を入れる場合、+（プラス）と-（マイナス）の向きに注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の乾電池は使用しないでください。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 乾電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



故障

- 長時間使用しないときは、乾電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出しておいでください。万一液漏れした場合は、水に浸した布を硬く絞って金具、周囲を清掃し、その後、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。
- 電池から漏れた液が体についたときは、水でよく洗い流してください。また目や口に入ったときは、水でよく洗い流した後、ただちに医師の診断を受けてください。
- 電池ボックスの端子をショートさせないでください。



破裂

- 電池を充電しないでください。



感電

- 電池に直接ハンダ付けしないでください。



故障

- 極端な温度条件下で保管しないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。

- 寿命がなくなった乾電池はすぐに取り出してください。放置すると、腐食により装置を傷めることがあります。
- ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい乾電池に交換してください。

3 リサイクルについて

パソコン本体の廃棄について

パソコンの液晶ディスプレイ内の蛍光管には水銀が含まれております。パソコン（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

■法人・企業のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分量の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社は、「富士通りサイクルシステム」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

■個人のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

重要

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ごみ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ごみ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・添付のリカバリディスクを使って、ご購入時の状態に戻す

などの作業をすと思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを読み出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

このパソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

ホームサーバー機能内蔵の機種をお使いの方は、最初に『ホームサーバー機能 取扱説明書』-「第8章 付録」-「1 補足情報」-「リサイクルについて」をご覧ください。ホームサーバー機能のハードディスクのデータ消去を行ってください。

■「ハードディスクデータ消去」の使い方

「ハードディスクデータ消去」を実行する前に、次の点にご注意ください。

- ・必要なデータはバックアップしてください。
- ・データ消去終了まで、数時間かかります。
- ・途中で電源を切らないでください。ハードディスクが壊れる可能性があります。
- ・周辺機器は取り外してください。
- ・リカバリディスクを準備してください。
- ・ご購入時に取り付けられている内蔵ハードディスクのみ消去できます。

準備ができたなら、次の手順にしたがって、「ハードディスクデータ消去」を実行します。

- 1 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。
- 2 キーボードの **F12** の位置を確認します。
パソコンの電源を入れた後、すぐこのキーを押せるようにしてください。
- 3 パソコンの電源を入れ、FUJITSU のロゴ画面の下にメッセージが表示されている間に、**F12** を押します。
F12 を軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
しばらくすると、起動メニューが表示されます。
- 4 **⊙**「リカバリディスク」1 枚目をセットします。
ディスクが認識されるまで 10 秒ほど待ってから、次の手順に進んでください。
- 5 **↓** を押して「CD-ROM」を選択し、**Enter** を押します。
しばらくすると、「リカバリメニュー」が表示されます。
- 6 **→**、または **←** を押して「ハードディスクデータ消去」を選び、**Enter** を押します。
ハードディスクデータ消去に関する注意事項が表示されます。
- 7 内容をよくお読みになり、同意していただいた場合は、**A** を押します。
書き込みエラー発生時の処理を選択する画面が表示されます。
- 8 内容をよくお読みになり、エラー発生時に処理を中断する場合は **E** を、エラーをスキップして消去を続ける場合は **S** を押します。
ハードディスクの情報と、消去手順中の注意が表示されます。
- 9 内容をよくお読みになり、消去を実行してもよい場合は、**V** を押します。
データ消去が始まります。
- 10 「データ消去が完了しました。」と表示されたら、ディスクを取り出し、電源ボタンで電源を切ります。

■ 法人・企業のお客様へ

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ完全消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	ランダムデータ 2 回書（標準）から海外規格（NSA, DoD・・・）に対応
ハード消去	消磁装置による磁気破壊（媒体表面水平磁力 5000 ガウス）

詳しくは、ストレージ統合サービス (<http://storage-system.fujitsu.com/jp/service/>) をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先 メールアドレス : erase@support.fujitsu.com

使用済乾電池の廃棄について

ワイヤレスキーボード、ワイヤレスマウス、TV リモコンなどには乾電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。

使用済乾電池を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

■ 法人・企業のお客様へ

使用済乾電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託してください。

■ 個人のお客様へ

使用済乾電池を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

富士通りサイクルシステムについて

弊社では 1998 年より、法人・企業のお客様から廃棄されるパソコン、液晶ディスプレイを「富士通りサイクルシステム」(有料)にて回収・リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでおります。

お問い合わせ／お申し込み先 : <http://eco.fujitsu.com> の「富士通りサイクルシステム」をご参照ください。

なお、法人・企業以外のお客様はお申し込みできません。

ご家庭から排出される PC グリーンラベル適用製品について

ご家庭から排出される使用済みパソコンの回収については、経済産業省 環境部会廃棄物・リサイクル小委員会パソコン 3R ワーキンググループと、環境省パソコン等リサイクル検討会の合同会合で審議された結果を踏えて、平成 15 年 10 月を目途に適切な方策を導入することになっております。

このため、PC グリーンラベル適用製品の各ご家庭からの具体的な回収開始時期及び回収方法等につきましては、別途、弊社よりインターネットなどを通じてご案内申し上げます。



(サービスアシスタント)の最初の画面 →

検索ボックス (キーワードから選ぶ)

検索

索引

A

Access ランプ 10
 ADSL 回線 67
 Application ボタン 14

B

Backup ボタン 14

C

Caps Lock 表示ランプ 10
 CD/DVD 操作ボタン 14
 CD-RW/DVD-ROM ドライブ 12
 CD アクセスランプ 10
 CD 取り出しボタン 12

D

DSU 65
 DVD Multi ドライブ 12
 DVD-R/RW ドライブ 12

E

E-mail ボタン 14

I

ID 設定値 80
 IEEE1394 (DV) 端子 12
 Internet ボタン 14
 ISDN 回線 65

L

LAN アンテナ 11
 LAN コネクタ 11
 LINE 端子 11

M

Menu ボタン 14
 Mute (消音) ボタン 14

N

Num Lock 表示ランプ 10

O

Online ランプ 10

P

PC カードスロット 12
 PC カード取り出しボタン 12
 PHONE 端子 11

PHS

ー接続用 USB ケーブル 66
 ー使う 66
 PIAFS 66

R

RECOVERY ボタン 11
 RESET ボタン 11

S

Scroll Lock 表示ランプ 10
 Status ランプ 10
 Support ボタン 14

T

TA 65

U

USB コネクタ 11, 12

W

WAN コネクタ 11
 Windows
 ー使用許諾契約書 33
 ーセットアップ 27

あ行

明るさ調整つまみ 12
 アプリケーション
 ー使い始める 47
 アンテナ入力 (F 型同軸) 端子 11
 イーメールボタン 14
 一般の電話回線 61
 インレット 11
 液晶ディスプレイ 10
 音量調節ボタン 14
 音量ボリューム 12

か行

カーソル 44
 各部名称 9
 ーパソコン本体前面 10
 ーパソコン本体背面 13
 ーワンタッチボタン 14
 画面で見るマニュアル 72
 乾電池 78, 89
 ー注意事項 101

キーボード		トーン	45
- ID 設定値	80	は行	
- 乾電池	78	ハードディスクアクセスランプ	10
- 混信を防ぐ	80	初めて電源を入れる	26
- 準備	22	パルス	45
- 通信周波数	80	ビデオ音声入力端子 (左)	11
キーボード/マウスアンテナ	10	ビデオ音声入力端子 (右)	11
機種名	16	ビデオ出力 (S ビデオ) 端子	11
強制終了	54, 57	ビデオ入力 (S ビデオ) 端子	11
クリック	32	ビデオ入力 (コンボジット) 端子	11
携帯電話		品名	16
- 接続用 USB ケーブル	66	プリンタ	72
- 使う	66	ヘッドホン端子/光デジタルオーディオ出力端子	12
混信を防ぐ		保証書	19
- ワイヤレスキーボード	80	ボリュームボタン (+)	14
- ワイヤレスマウス	80	ボリュームボタン (-)	14
さ行		ま行	
サービスアシスタント	40	マイク端子	12
再生/一時停止ボタン	14	マウス	
周辺機器を取り付ける	72	- ID 設定値	80
仕様	94	- 乾電池	78
- LAN 機能	99	- 混信を防ぐ	80
- TV チューナーカード	100	- 準備	22
- 液晶ディスプレイ	99	- 通信周波数	80
- 内蔵スピーカー	99	- 持ち方	31
- ハードエンコーダ付き TV チューナーカード	100	前トラックボタン	14
- パソコン本体	94	メール着信ランプ	10
- リモコン	100	メモリ	72
スタンバイボタン	14	メモリスロット	13
スピーカー	10	モデム	61
接続する	21	ら行	
セットアップ	27	ラインアウト端子	11
た行		ラインイン端子	11
ターミナルアダプタ	65	リサイクル	102
チャンネルスイッチ	13	リモコン	88
通信周波数	80	リモコン受光面	10
通信の回線	60	わ行	
通風孔	13	ワイヤレス LAN アンテナ	10
次トラックボタン	14	ワイヤレス LAN 用アンテナ接続コネクタ	11
ディーエスユー	65	ワイヤレスキーボード	
停止/取り出しボタン	14	- ID 設定値	80
ディスプレイの接続	21	- 乾電池	78
電源		- 混信を防ぐ	80
- 入れる	48	- 通信周波数	80
- 切る	48	ワイヤレスマウス	
- 切れない場合	54, 57	- ID 設定値	80
電源ケーブルの接続	24	- 乾電池	78
電源ボタン	12, 14	- 混信を防ぐ	80
電源ランプ	10	- 通信周波数	80
電話回線		ワンタッチボタン	14
- 種類	45		
- 接続する	61		
盗難防止用ロック取り付け穴	13		

FMV-DESKPOWER L20C/F,L20C/R,L20C/S,L20C
L20CN,L20C/CN

パソコンの準備

B5FH-7341-01-00

発行日 2003年1月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。